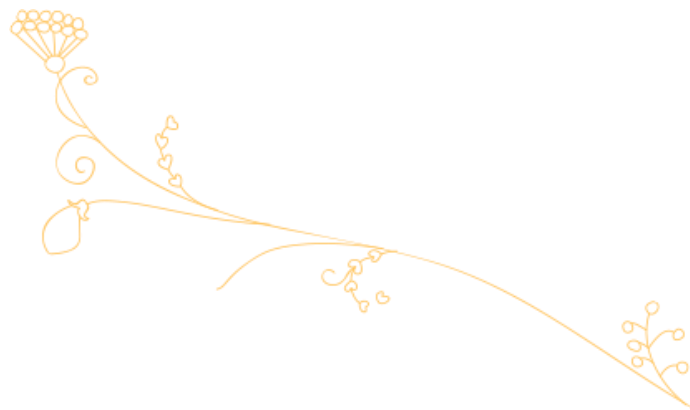




2025年12月期第 1 四半期決算説明資料

2025年5月
株式会社セレス（東証プライム市場：3696）



INDEX

1. 連結決算の概要

2. 各事業の業績

モバイルサービス事業

フィナンシャルサービス事業

APPENDIX



1. 連結決算の概要

2025年度第1四半期 実績

売上高	7,686 百万円	(+14.4%)
営業利益	860 百万円	(+20.7%)
経常利益	352 百万円	(-69.1%)
当期純利益	▲57 百万円	(-)

- 売上高はモッピー大幅伸長により増収をけん引
- 営業利益は暗号資産市場低迷の影響を受けつつもモッピーをはじめとするモバイル好調で大幅増益
- ビットバンクの持分法投資損失4.7億円を計上し、当期純利益はマイナスに

モバイルサービス事業

売上高	7,523 百万円	(+19.9%)
営業利益	1,539 百万円	(+37.6%)

- モッピーの売上高は前年比+38.9%、大幅増収で粗利額は1,156百万円と四半期として過去最高
- D2Cは主力商品の苦戦で減収減益
- DXは受注改善・稼働率上昇で営業利益前年比9.2倍

フィナンシャルサービス事業

売上高	162 百万円	(-63.6%)
営業利益	▲357 百万円	(303百万円 赤字拡大)

- マーキュリーは暗号資産市場低迷により評価損計上ステークキング収益減により減収減益
- ラボルはファクタリングのGMVが増加し、売上高は前年比+76.3%・赤字幅縮小

※ () 内は「前年比」

損益計算書の概要

(単位：百万円)	第1四半期 (2025年1-3月)	前年同期 (2024年1-3月)	前年同期比	前四半期 (2024年10-12月)	前四半期比
売上高	7,686 (100.0%)	6,718 (100.0%)	+14.4%	7,488 (100.0%)	+2.6%
売上総利益	3,295 (42.9%)	3,292 (49.0%)	+0.1%	3,609 (48.2%)	-8.7%
販売費及び 一般管理費	2,434 (31.7%)	2,579 (38.4%)	-5.6%	2,811 (37.5%)	-13.4%
営業利益	860 (11.2%)	713 (10.6%)	+20.7%	798 (10.7%)	+7.8%
経常利益	352 (4.6%)	1,140 (17.0%)	-69.1%	1,153 (15.4%)	-69.4%
四半期純利益※1	-57 (-)	832 (12.4%)	—	635 (8.5%)	—
EBITDA※2	482 (6.3%)	1,255 (18.7%)	-61.6%	1,314 (17.6%)	-63.3%

※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

ポジティブ

モッピー 過去最高業績

2025年1Q 売上高

4,334百万円

2025年1Q 粗利額

1,156百万円

- 金融案件増加により売上高は過去最高を更新
前年比 + 38.9%
- アクティブ会員数は
前年比 + 12.0%
- ARPUは過去最高水準に

ゆめみ 前年比9.2倍増益

2024年1Q 営業利益

31百万円



2025年1Q 営業利益

290百万円

- 営業体制の見直しにより
前年比50%の増収に
- 稼働率83.8% (+ 5.5pt)
と大きく改善し大幅増益
に寄与

ネガティブ

D2C 前年比減収

2024年1Q 売上高

1,751百万円



2025年1Q 売上高

1,113百万円

- 主力商品ピットソールのSKU拡充遅延で苦戦
- 顧客獲得コストが合わず
広告出稿が縮小したため
減収減益

マーキュリー

2025年1Q
営業損益

▲311百万円

ビットバンク

2025年1Q
持分法投資損益

▲474百万円

- アルトコイン時価総額
2024年末の約1.5兆ドル
から3割超下落し2025年
3月末は約1兆ドルに※
- マーキュリーは暗号資産
評価損148百万円計上

※ アルトコインとはビットコイン以外のすべての暗号資産（仮想通貨）を指す総称です。 出所：CoinGecko

株式会社ゆめみの全株式を譲渡

譲渡契約締結

譲渡金額※
約**37**億円予定

- 5月8日付でアクセンチュアと譲渡契約を締結
- 2025年2Qの株式譲渡予定
- ゆめみの業績は2025年2Qまで取込みを予定

特別利益計上予定

連結決算
約**23**億円
個別決算
約**32**億円

- 関係会社株式売却益を特別利益に計上予定
- 2025年12月期連結業績予想は、譲渡完了後に譲渡金額が確定次第、速やかに修正予定

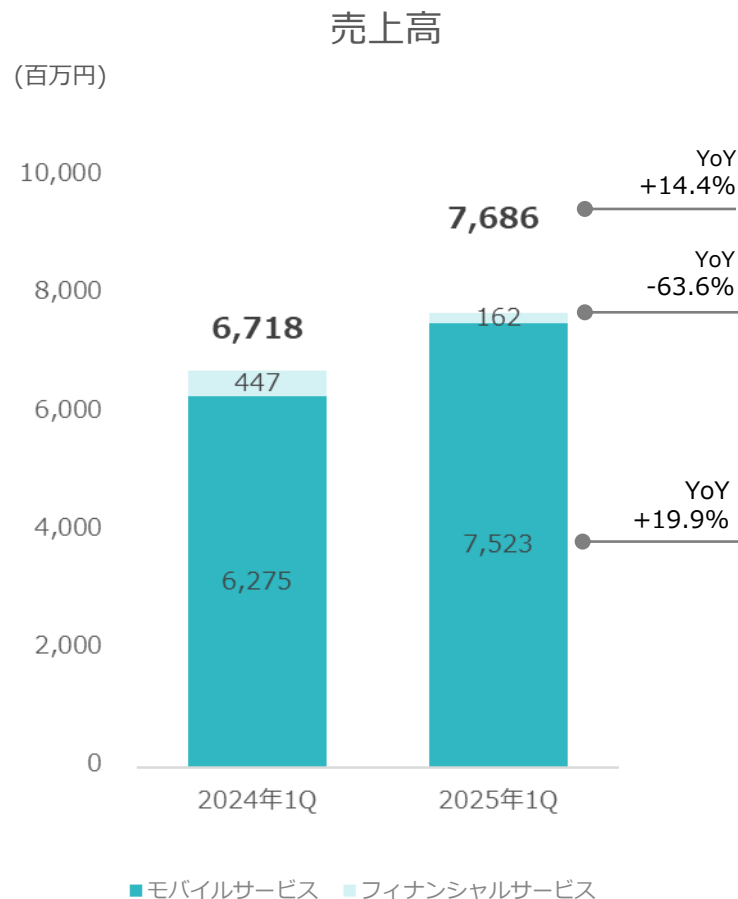
DX事業の撤退

事業の選択と
集中を推進

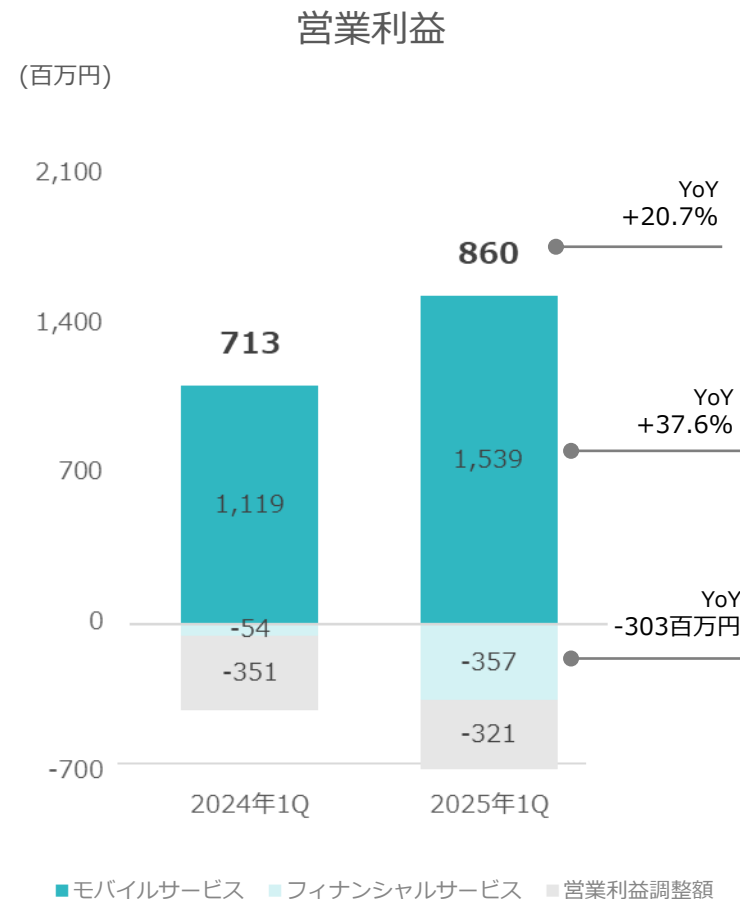
- ポイント経済圏を形成するポイントとD2Cおよびブロックチェーンへ成長投資を集中
- 垂直統合モデルによる利益率向上をベースにロールアップ型M&Aを推進

※譲渡価額は、当社が保有する譲渡対象株式の当初価格として合意した金額であり、最終的な譲渡価額は、本株式譲渡契約に定める価格調整等を経て決定されます。

モバイルはモッピー・DX好調により大幅増収増益で営業利益は前年比約1.4倍
 フィナンシャルはMQが暗号資産市場低迷で減収減益、ラボルは増収・赤字幅縮小



※ セグメント間の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。



※ 営業利益調整額は特定のセグメントに帰属しない費用項目です。

セグメント別業績

(単位 : 百万円)	売上高		営業利益	
	第1四半期 (2025年1-3月)	前年同期 (2024年1-3月)	第1四半期 (2025年1-3月)	前年同期 (2024年1-3月)
全社	7,686 YOY +14.4%	6,718	860 YOY +20.7%	713
モバイルサービス事業	7,523 YOY +19.9%	6,275	1,539 YOY +37.6%	1,119
ポイント	4,934 YOY +38.9%	3,553	1,152 YOY +47.1%	782
D2C	1,113 YOY -36.4%	1,751	129 YOY -62.0%	341
DX	1,481 YOY +50.6%	983	290 YOY +817.4%	31
セグメント内取引高	-7 YOY -	-13	-32 YOY -	-36
フィナンシャルサービス事業	162 YOY -63.6%	447	-357 YOY -	-54
セグメント間取引高 / 調整額	-0 YOY -	-4	-321 YOY -	-351

営業利益・経常利益の増減要因

(百万円)

営業利益

2024年12月期
1Q営業利益

713

ポイント

- ・ モッピー大幅増収による増益

369

- ・ ピットソール減速

D2C

▲211

DX

- ・ 稼働率上昇

258

- ・ 暗号資産市場低迷により赤字幅拡大

マーキュリー

▲223

ラボル

0

CVC

▲80

調整額等

34

2025年12月期
1Q営業利益

860

YoY
+147
(+20.7%)

経常利益

2024年12月期
1Q経常利益

1,140

営業損益

147

持分法投資損益
(ビットバンク)

▲845

その他営業外損益

▲89

2025年12月期
1Q経常利益

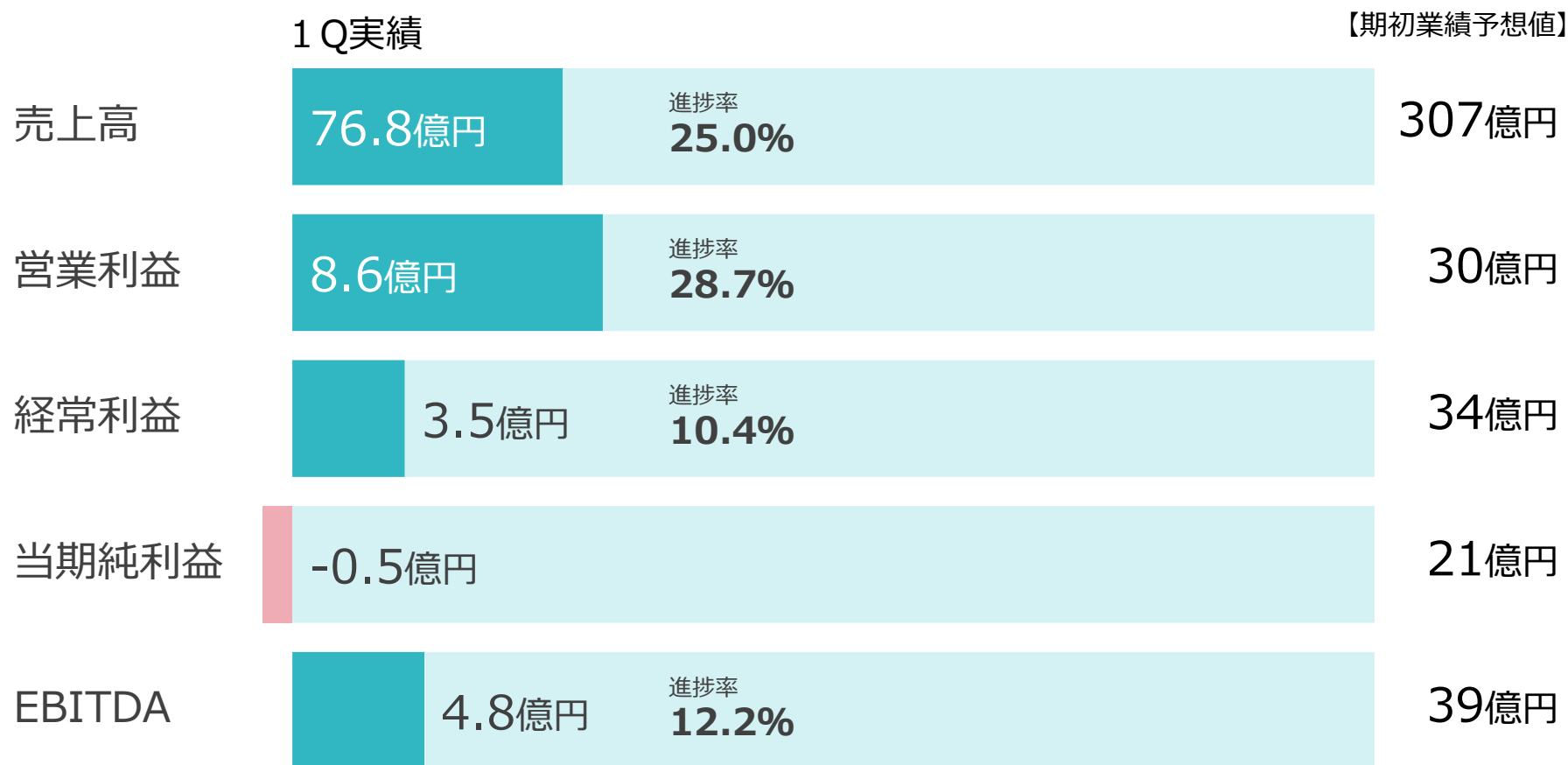
352

YoY
-788
(-69.1%)

- ・ 2024年1Qは370百万円利益を計上
- ・ 2025年1Qは474百万円損失を計上

期初業績予想に対する進捗状況

営業利益はモバイル好調がフィナンシャル赤字拡大をカバーし順調な進捗
経常利益・当期純利益は暗号資産市場低迷でBBの持分法投資損失が進捗に影響



貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2025年12月期 第1四半期末	2024年12月期 期末	前年増減額	主な要因
	流動資産	23,949 (73.3%)	23,850 (72.3%)	+99	現金及び預金 -416 受取手形、売掛金及び契約資産 +675 商品在庫 +152
	固定資産	8,739 (26.7%)	9,125 (27.7%)	-386	のれん -51 関係会社株式 -478
資産合計		32,689 (100.0%)	32,976 (100.0%)	-286	
	流動負債	17,610 (53.9%)	16,852 (51.1%)	+758	短期借入金※ +940 ポイント引当金 +494
	固定負債	3,041 (9.3%)	3,402 (10.3%)	-361	長期借入金 -380
負債合計		20,652 (63.2%)	20,254 (61.4%)	+397	
純資産合計		12,036 (36.8%)	12,721 (38.6%)	-684	当期純利益 -57 配当金 -690
負債・純資産合計		32,689 (100.0%)	32,976 (100.0%)	-286	

※短期借入金は1年以内返済予定の長期借入金を含みます。

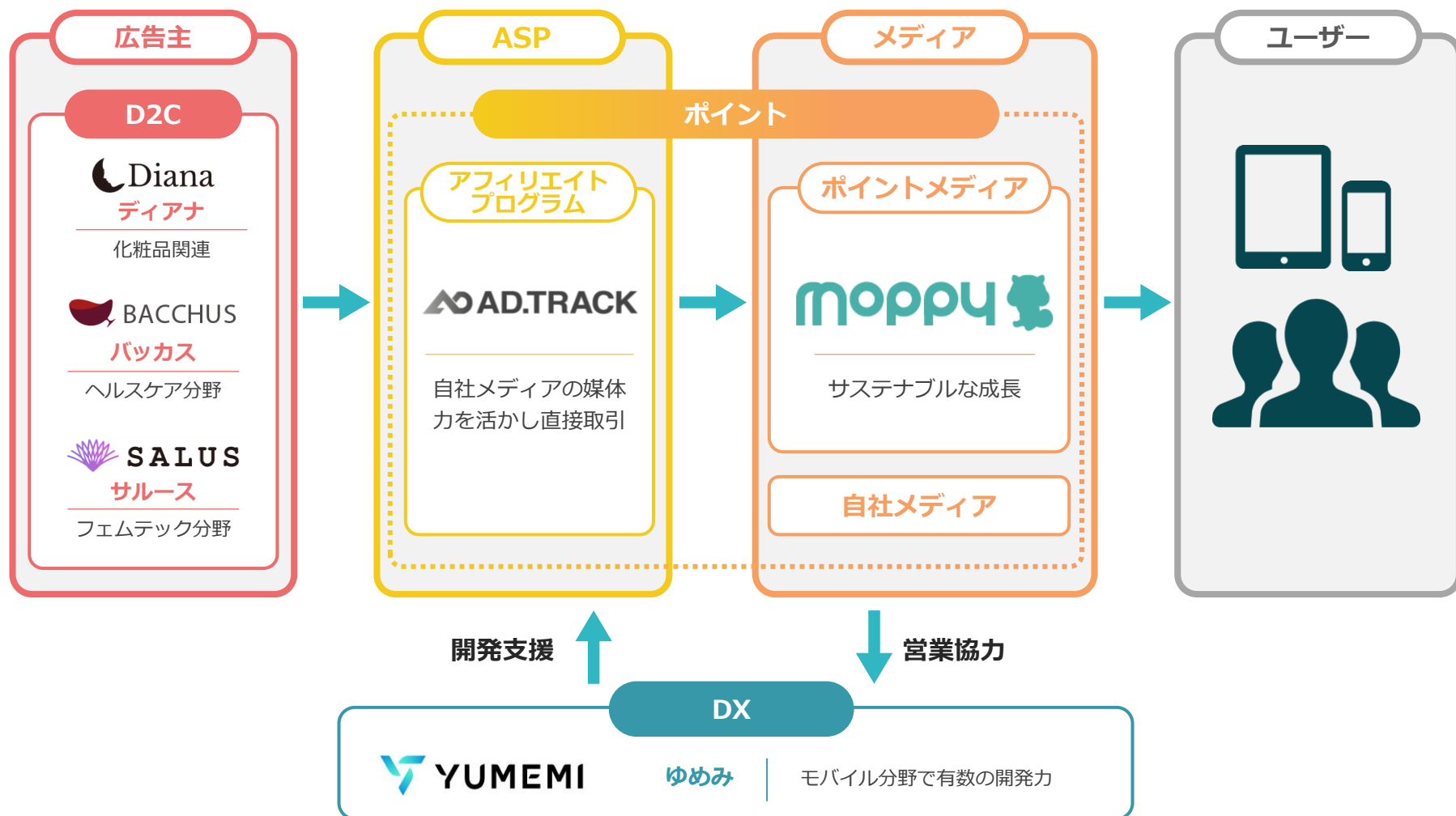


2. 各事業の業績

モバイルサービス事業

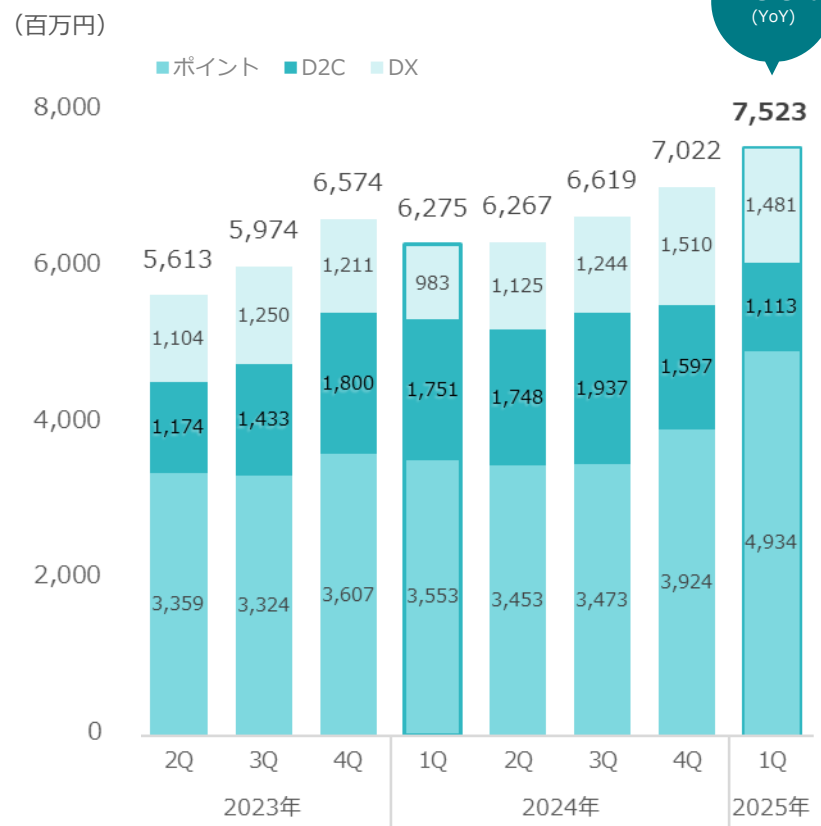
フィナンシャルサービス事業

モッピー・アドトラック・D2Cの相互連携でシナジーを創出

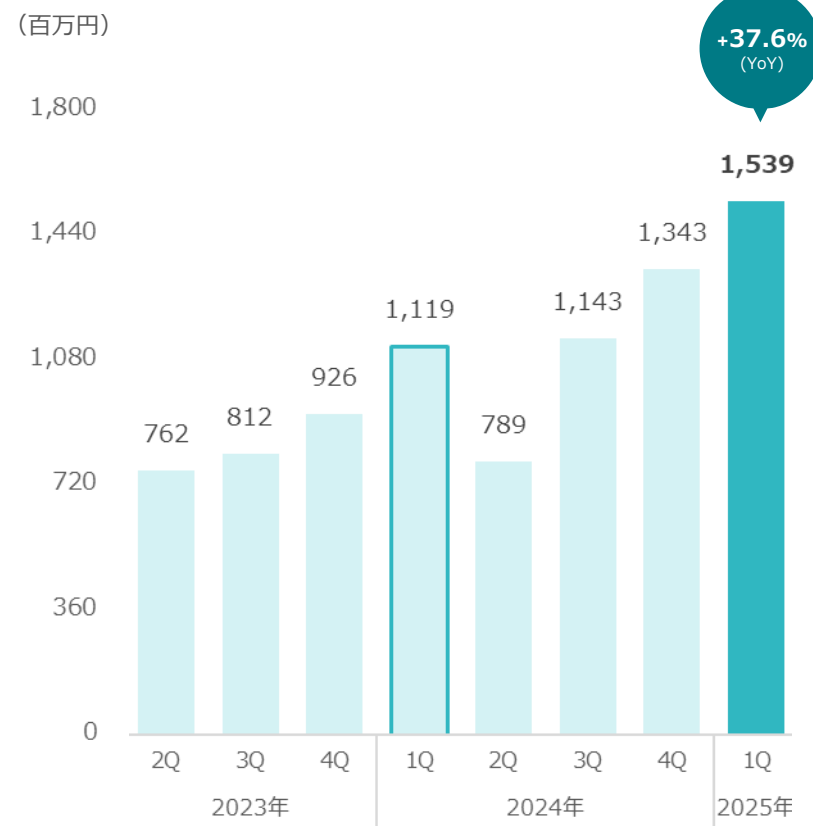


売上高はポイント・DXが好調で前年比増収、D2Cは主力商品の苦戦により減収
営業利益はモッピーの粗利額が過去最高、DXの稼働率上昇により前年比増益

売上高

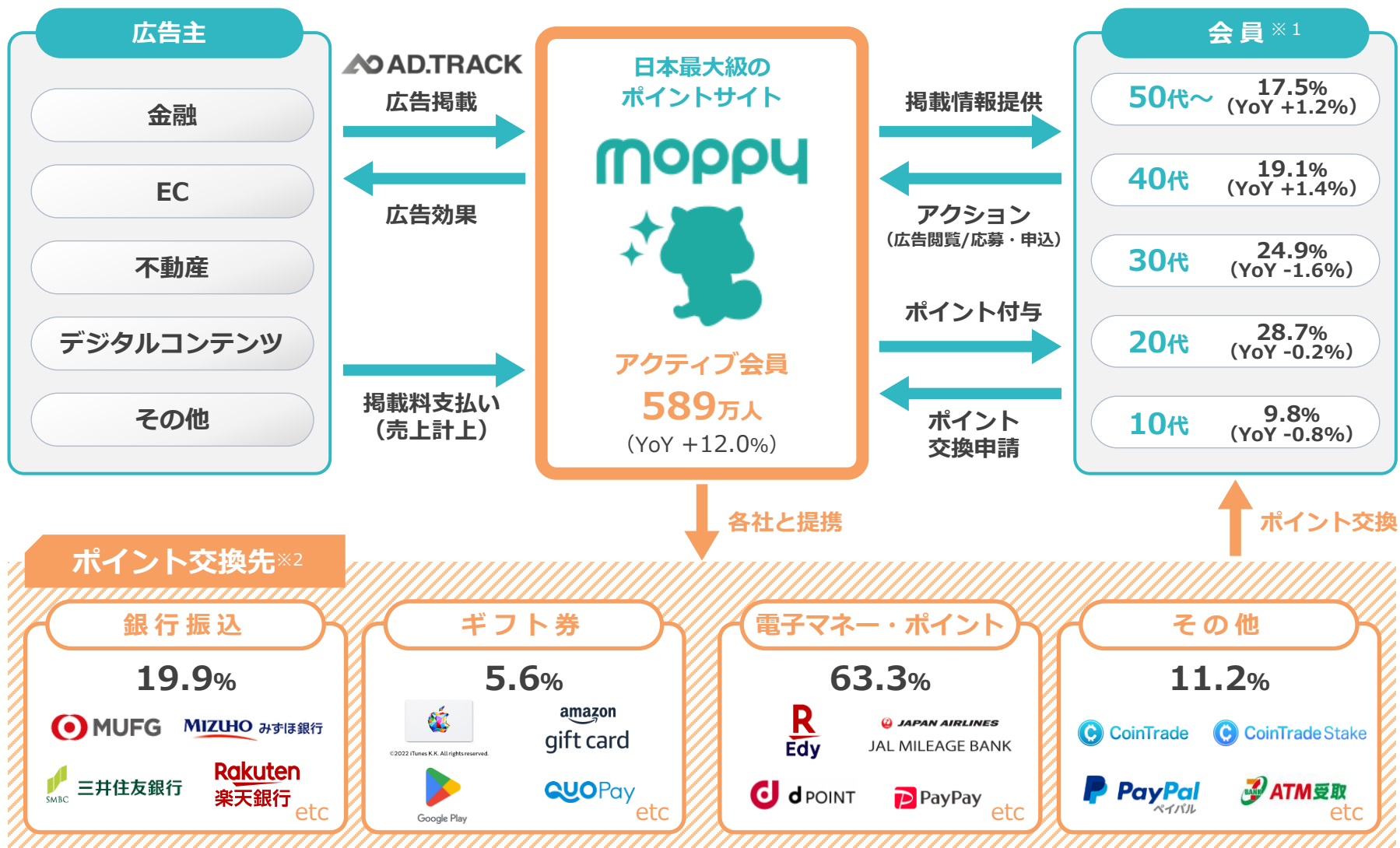


営業利益



※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

モッピーのビジネスモデル



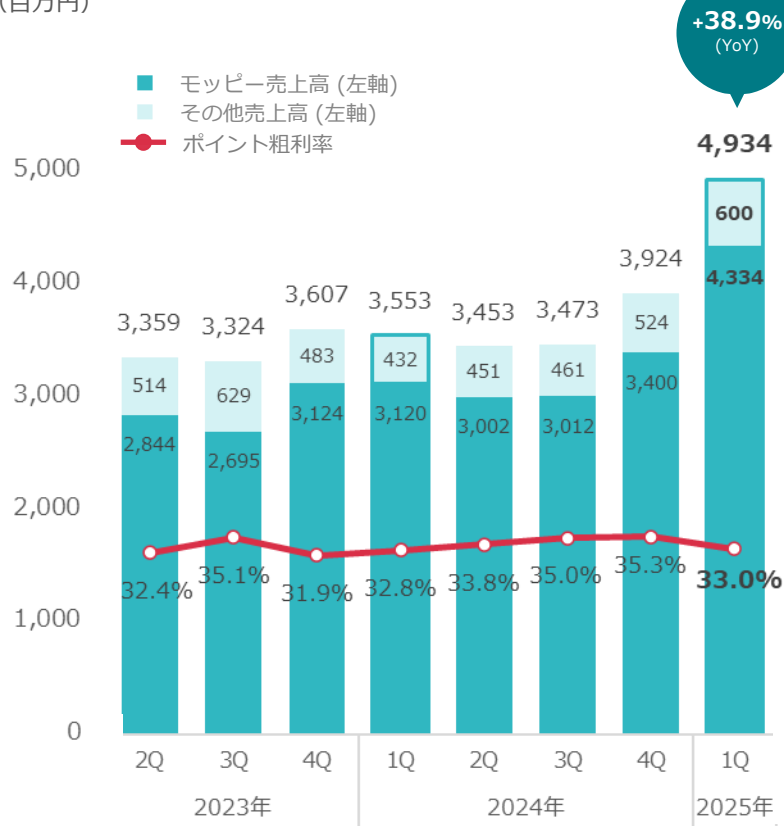
※1 2025年3月末日時点の割合

※2 2025年1~3月に発生したポイント交換割合

モッピー・不動産メディア・studio15が四半期として過去最高売上高を更新 モッピーは高単価の金融案件が伸長、そのため高ポイント還元率で粗利率減に

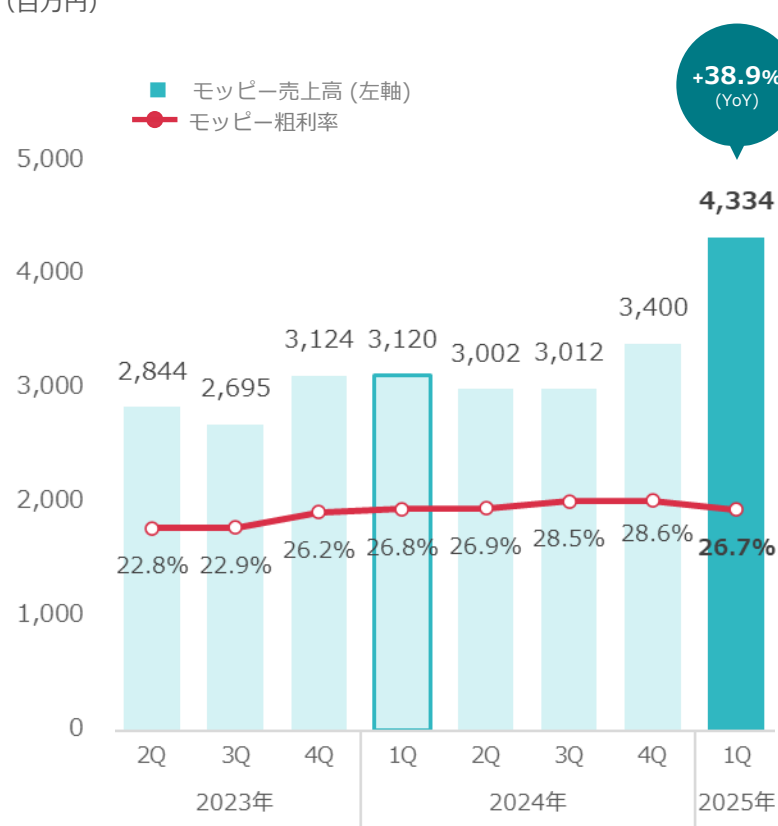
ポイント売上高・粗利率

(百万円)



モッピー売上高・粗利率

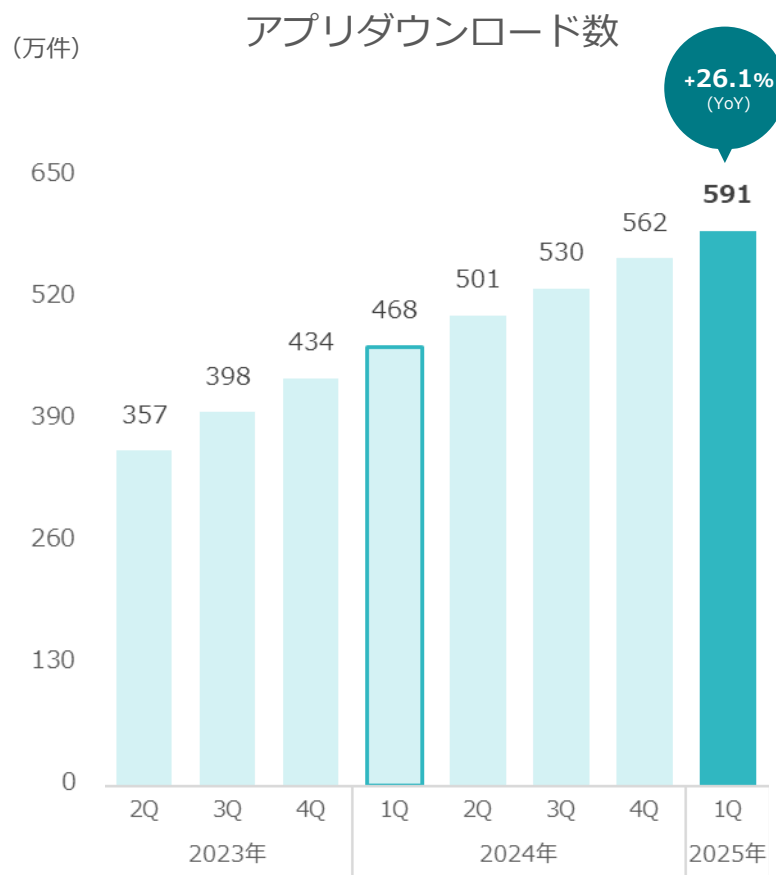
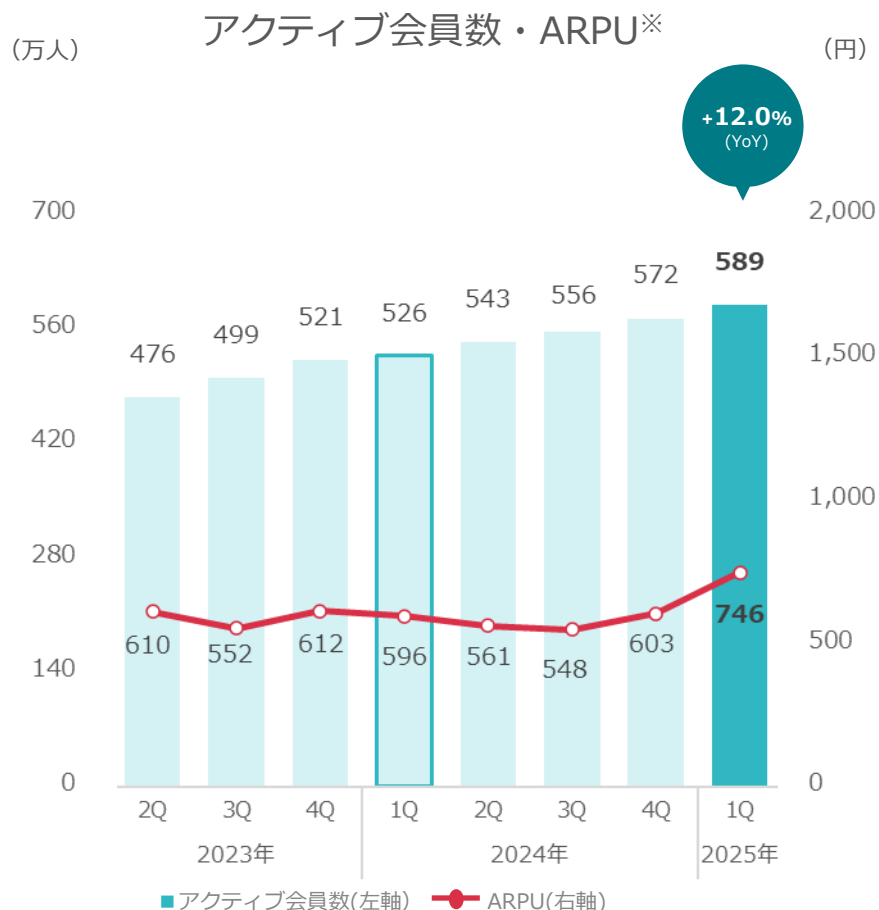
(百万円)



※ セグメント内区分の変更により2021年度以前のモバイルサービス事業の内訳を修正して記載しております。

※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

アクティブ会員の継続的な増加に加え、ARPUは金融案件好調で過去最高水準に
中期経営計画2026で掲げるアクティブ会員目標数700万人に対する進捗は好調



※ ARPUは、モッピーの四半期売上高を期中平均のモッピーアクティブ会員数で除して算出しております。

覆面調査でポイント還元の「モッピーフクモニ」を2025年4月に開始
リアル店舗でのポイ活を取り入れ、モッピーに新たなタッチポイントを創出

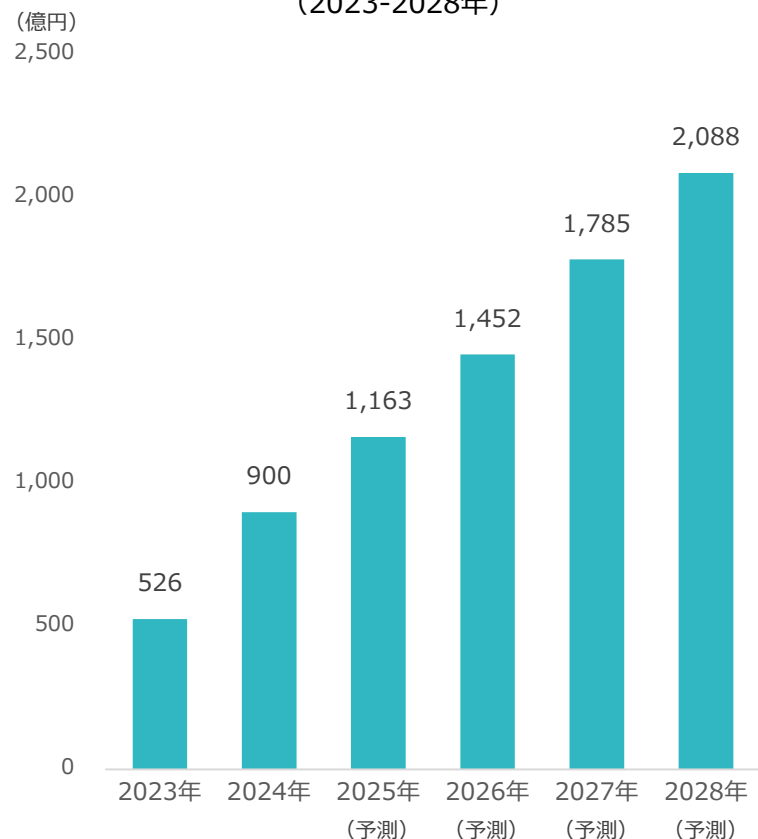


※ 対象のカテゴリは順次追加予定です。

ポイ活がリアル店舗へ拡大
モッピーの新たなタッチポイントに

急拡大するTikTok市場でMCN※1として広告代理事業の実績を誇る 成長著しいライブ・動画コマース×アフィリエイトに参入し収益ドライバーを創出

動画広告市場規模推計・予測[縦型動画広告] ※2
(2023-2028年)



studio15の主な3つのサービス※3

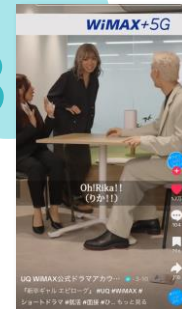
01 アカウント運用



02 クリエイタータイアップ



03 ショートドラマ



「TikTok Shop」日本でローンチ予定

ライブ・動画コマース市場の本格成長に期待

- 中国を中心にライブ・動画コマース市場が急速に拡大
- 日本国内でも同様のトレンドが予想され市場拡大が見込まれる
- studio15は、TikTokイベントでも登壇しており、強力に推進予定

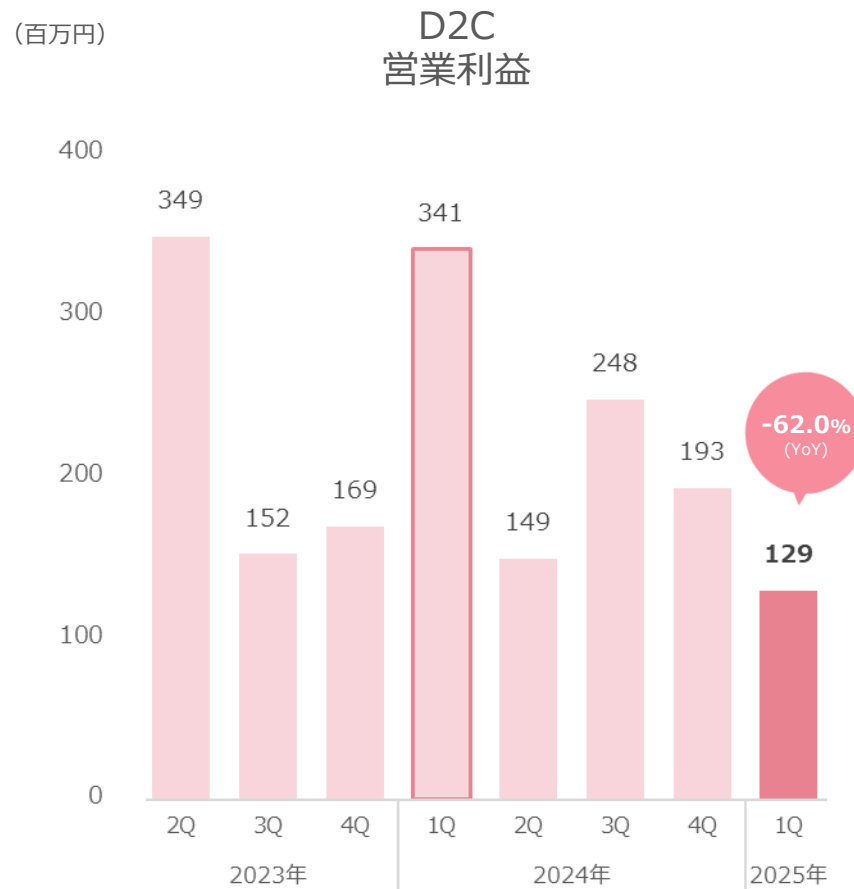
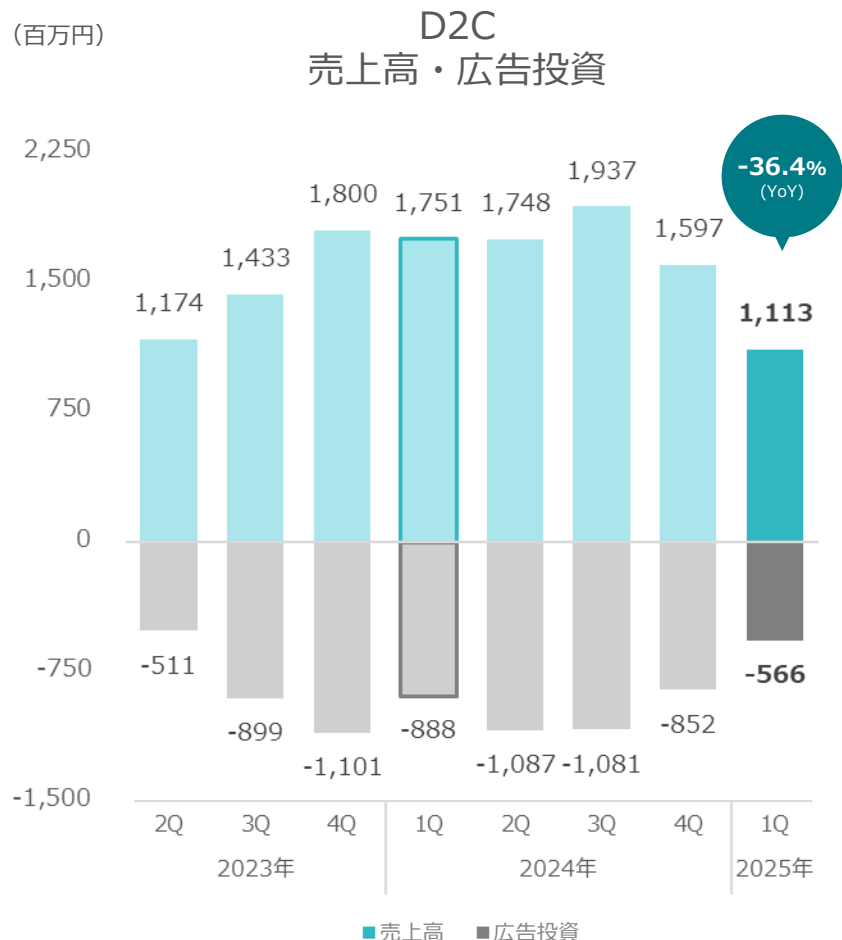
ライブ・動画コマース×アフィリエイトの実現で

新規市場の開拓へ

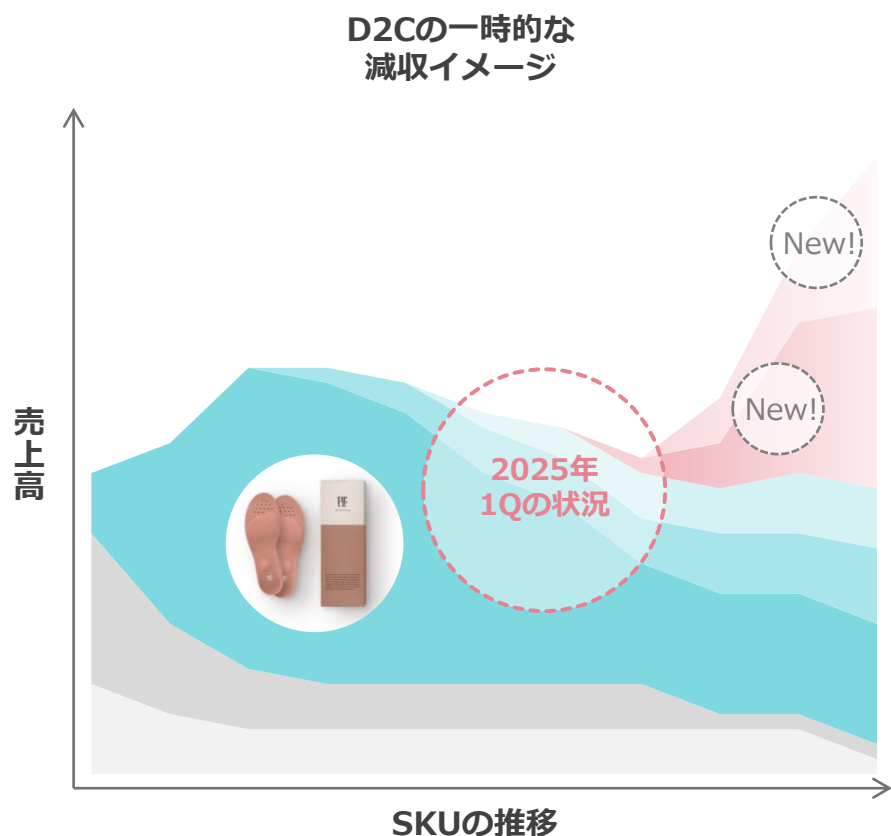
※1 TikTokやYouTubeをはじめとするオンラインプラットフォームで活動するクリエイターを支援し、マネジメントを行う組織を指しております。(Multi-Channel Networkの略)

※2 出所: <https://www.cyberagent.co.jp/news/detail/id=31459> ※3 出所: <https://studio15.co.jp>

主力商品のピットソールのSKU拡充を進めるも売上貢献はこれからの段階
顧客獲得コストの上昇に伴い十分な広告投資を実施できず減収減益



ピットソール販売苦戦と新商品リリースの遅れが重なり一時的に減収 新商品の継続投入およびプロモーションのテコ入れにより売上高回復へ



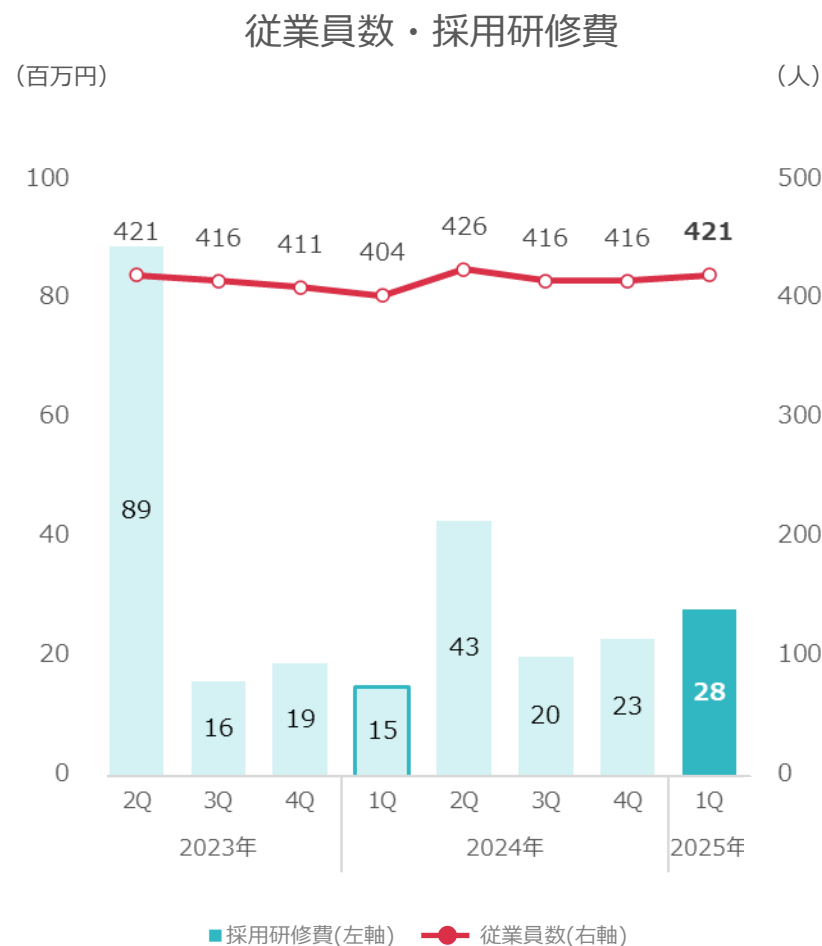
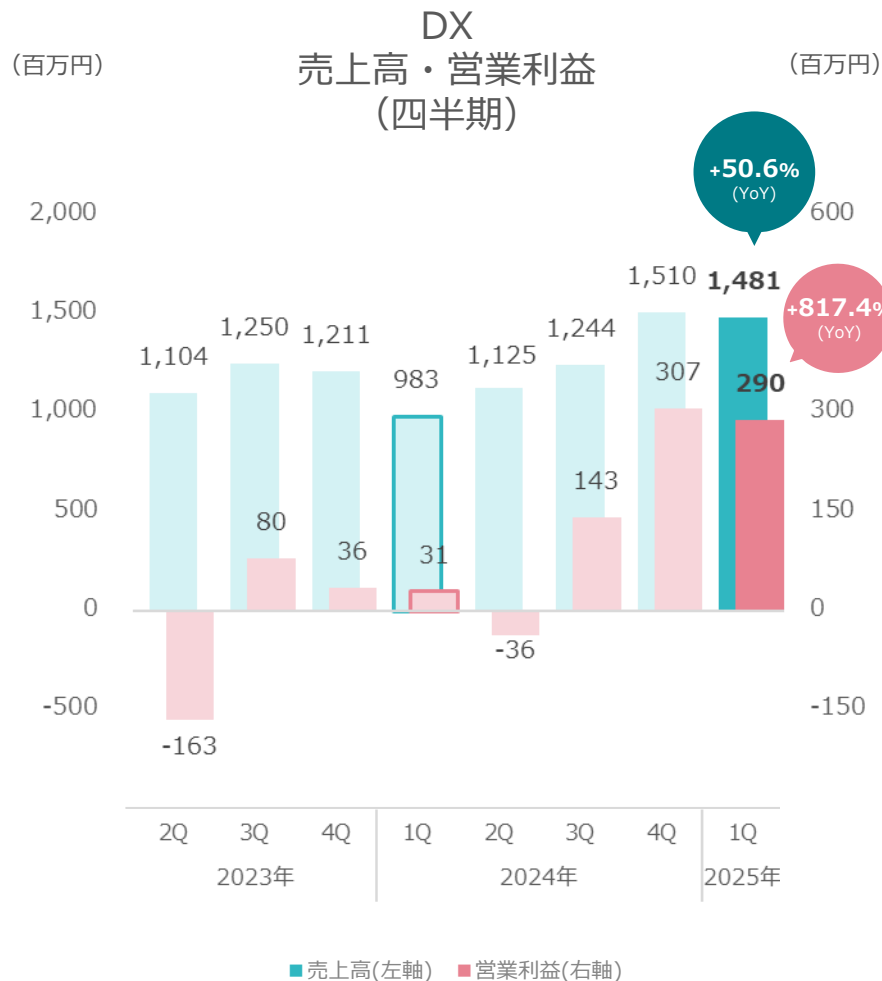
ピットソールのブランド構築・商品展開強化

- **ピットソールの転売・模倣品の対策**
ブランド維持と収益保護
- **ピットソールのブランド化**
ピットソールに使われている特許技術を活かしてSKU拡充を継続
- **プロモーションのテコ入れ**
インフルエンサーマーケティングを強化

今後の商品展開方針

- **美容・雑貨関連の商品投入を強化**
新たなサプリメントの開発は控え、美容・雑貨関連の新商品を投入予定
- **ピルのオンライン診療「エニピル」の強化**
直販に加え、企業の福利厚生としての導入を推進

営業体制の改善を契機に引き続き受注が好調・売上高は前年比1.5倍増
過去に大量採用した新卒エンジニアの戦力化による稼働率上昇で営業利益率改善



ゆめみの株式譲渡について



モバイルサービス・DX事業を手掛ける連結子会社ゆめみの全株式を、
2025年5月8日付でアクセンチュアへ**約37億円**※で譲渡する契約を締結

2025年12月期第2四半期中の譲渡実行、**第2四半期までの業績取込みを予定**
第3四半期以降の業績については諸条件が確定次第、**業績予想を修正予定**

本株式譲渡により、2025年12月期連結決算において**約23億円**、
個別決算において**約32億円**の関係会社株式売却益を特別利益に計上予定

アセットアロケーションの見直しにより、中核事業であるポイント経済圏（ポイント・D2C）
・ブロックチェーン事業への**経営資源の再配分**と**株主還元の強化**を進める

※譲渡価額は、当社が保有する譲渡対象株式の当初価格として合意した金額であり、最終的な譲渡価額は、本株式譲渡契約に定める価格調整等を経て決定されます。

トークンエコノミーのポイント経済圏（ポイント・D2C）とブロックチェーンへ投資を集中して高収益&継続成長とイノベーションによる成長の両立を図る



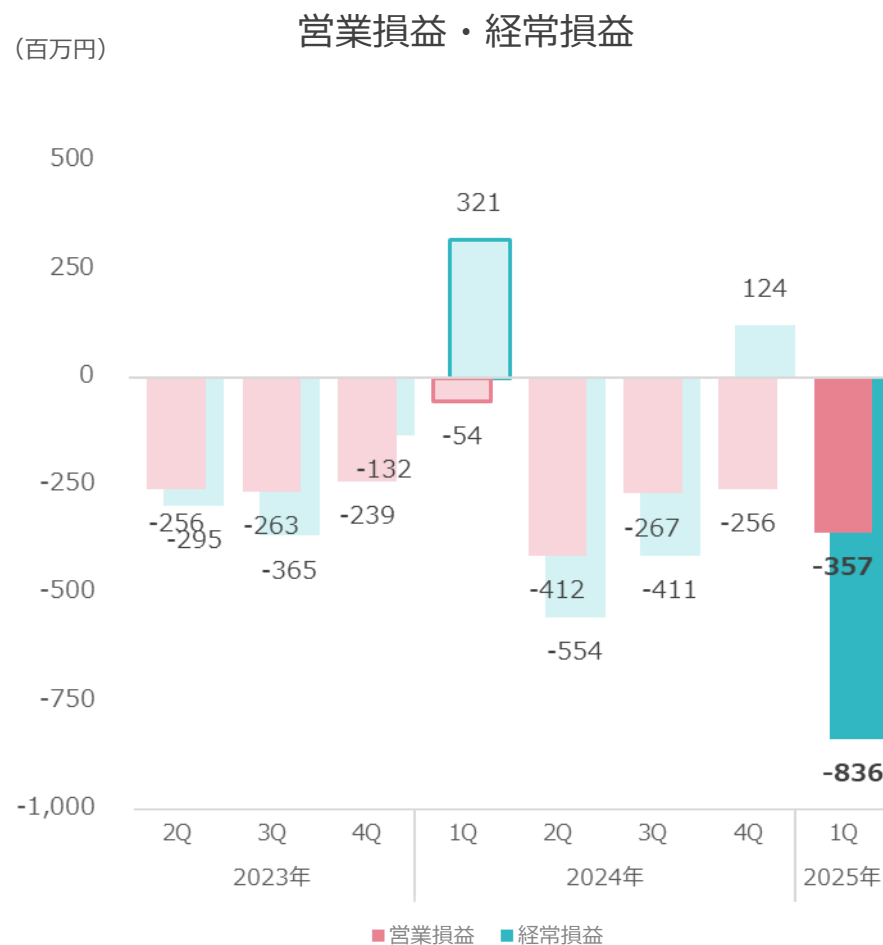
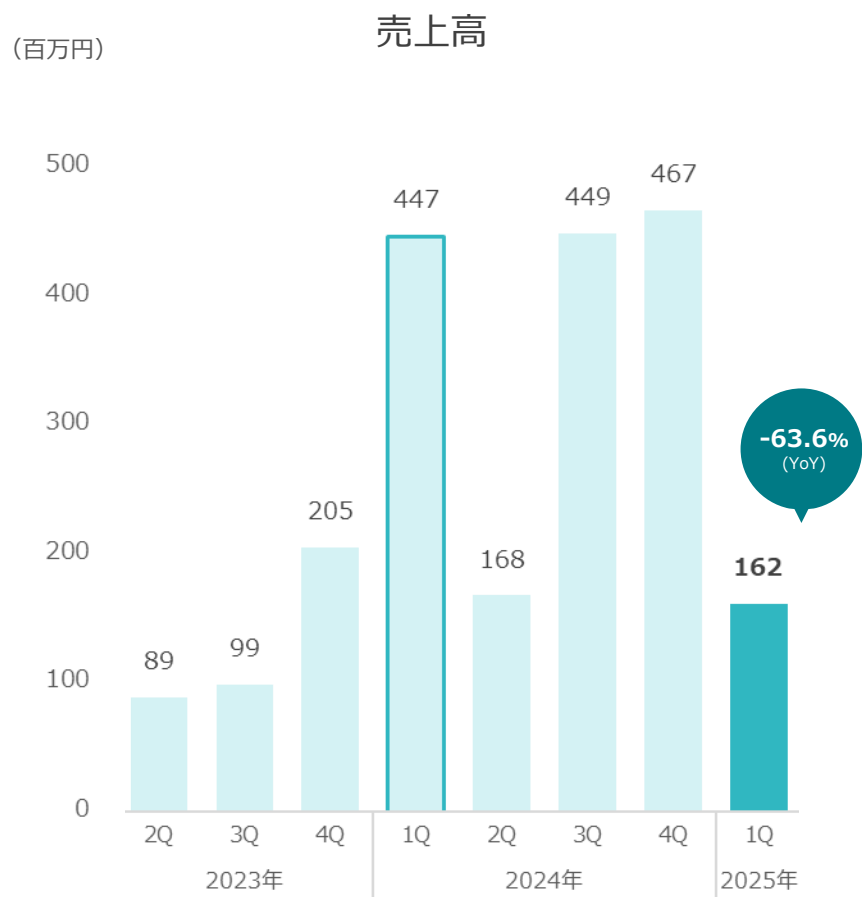


2. 各事業の業績

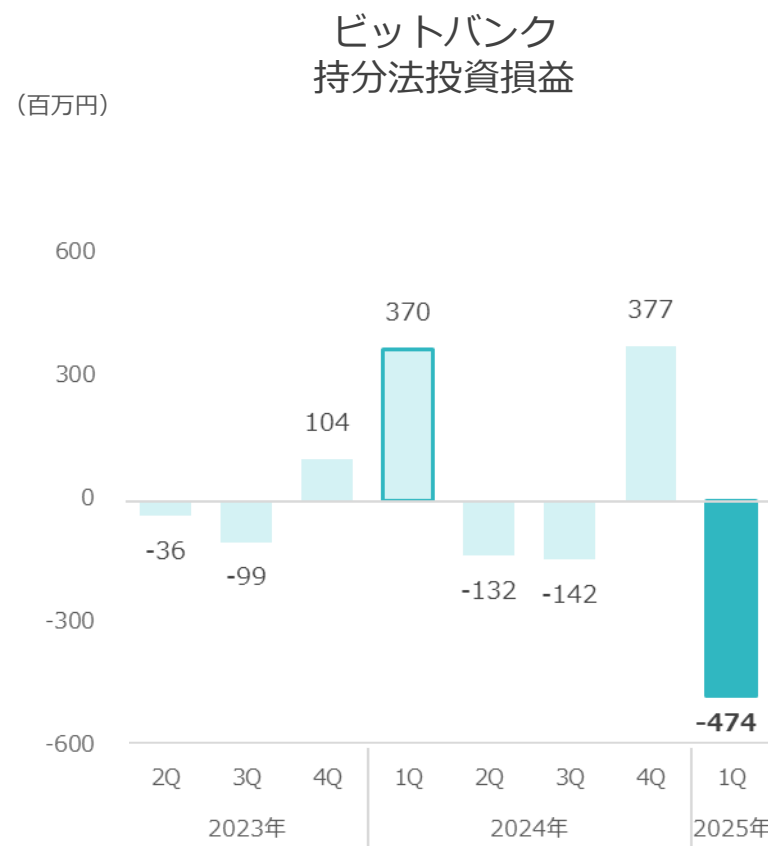
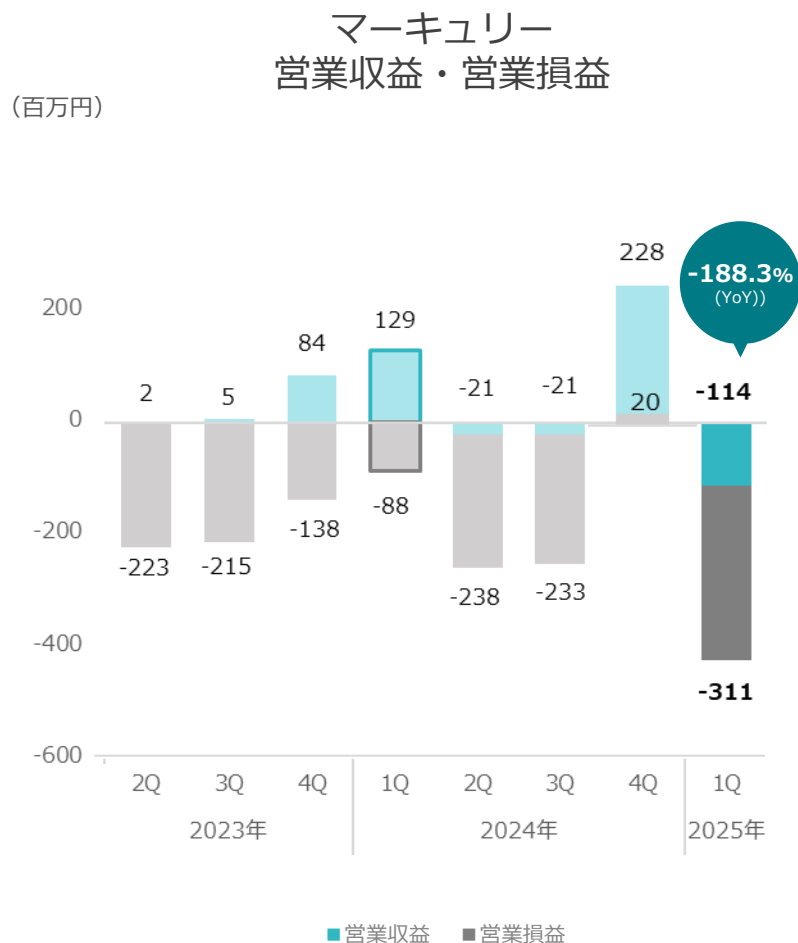
モバイルサービス事業

フィナンシャルサービス事業

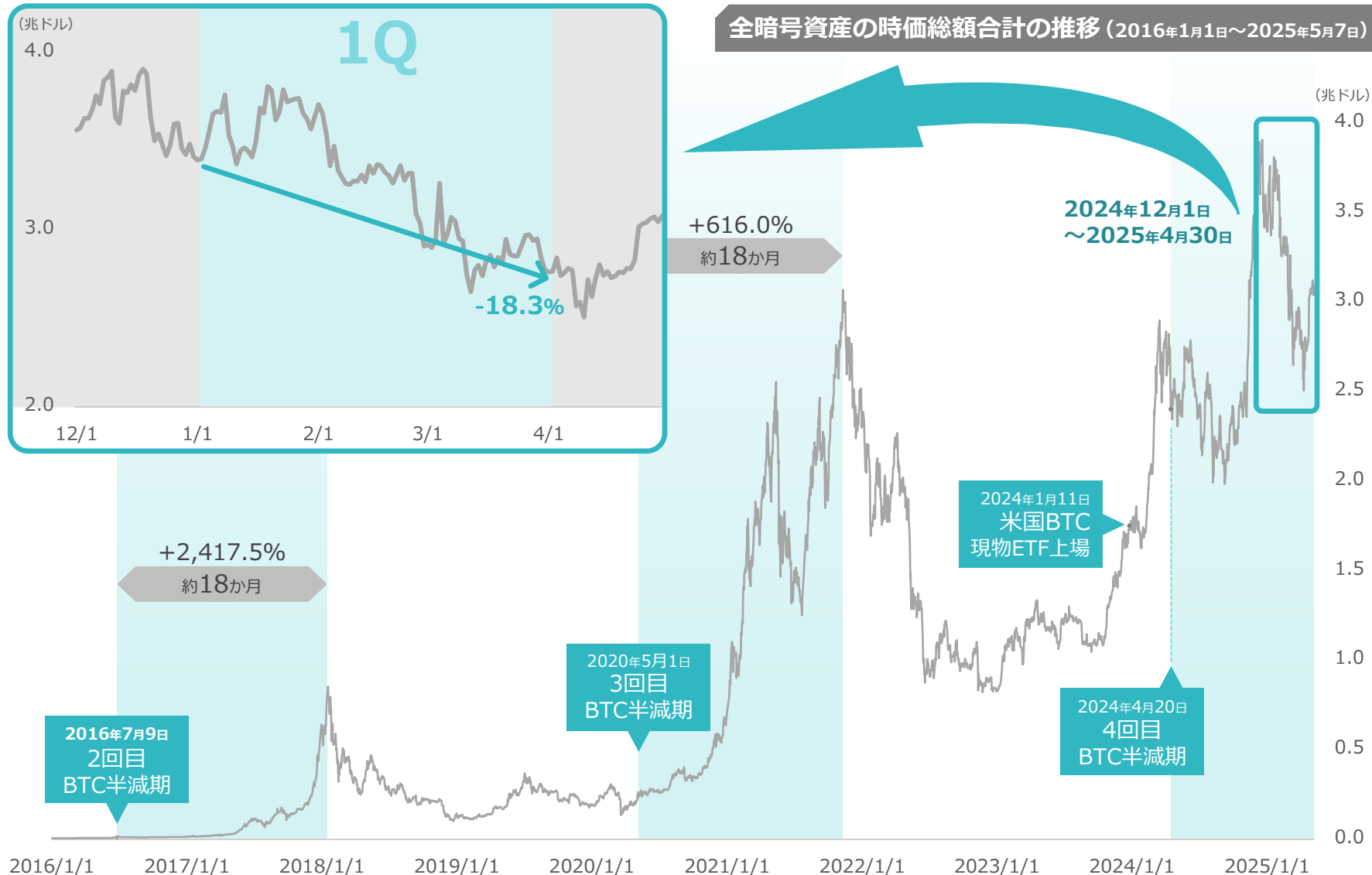
売上高はラボルで前年比76.3%増もMQで▲1.1億円を計上し前年比減収
経常利益は暗号資産市場低迷によりビットバンクの大幅減益の影響を受ける



マーキュリーは取扱いの主たるアルトコイン価格が大幅下落し減収減益
ビットバンクはビットコインをはじめとする主要通貨の価格下落により大幅減益



暗号資産の時価総額推移



※ 出所：CoinGeckoよりセレス作成（2025年5月7日現在）

暗号資産価格の下落により自己保有暗号資産の評価損を営業収益に計上 取引量の減少に伴い手数料・スプレッド収益も減少し、収益悪化がさらに進行

暗号資産における価格変動の影響

取引高増減

- 相場の変動は投資家のセンチメントにも大きな影響を与え、取引高も大きく変動する
- 取引高の変動は取引所の規模に連動する

取引高に影響される**主な収益**

手数料収入

スプレッド収益

ステーキング収益

評価損益

- 暗号資産交換業は投資以外の目的で一定量の暗号資産を自己保有するため、価格変動のリスクにさらされている
- 自己保有の暗号資産については会計ルール上評価・売却損益を**営業収益（売上高）**に計上

取扱い銘柄を**一定量自己保有する目的**

- ・ 取引の流動性を確保するため
- ・ 最低ステーキング額を確保するため
- ・ 収益を暗号資産建てで受け取るため

影響範囲



連結子会社
当社持分**100%**

連結売上高以下



持分法適用関連会社
当社持分**23.1%**

連結経常利益以下

モバイル・ブロックチェーン関連などセレスの事業と親和性のある事業に投資 第1四半期はD2C関連事業を展開する国内企業1社・約100百万円の投資を実行

(2025年3月末)



モバイルサービスと連携

メディア・D2C関連



フィナンシャルサービスと連携

フィンテック・ブロックチェーン関連



valuedesign



adish



IPO実績 8 社



APPENDIX

APPENDIX

会社概要

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

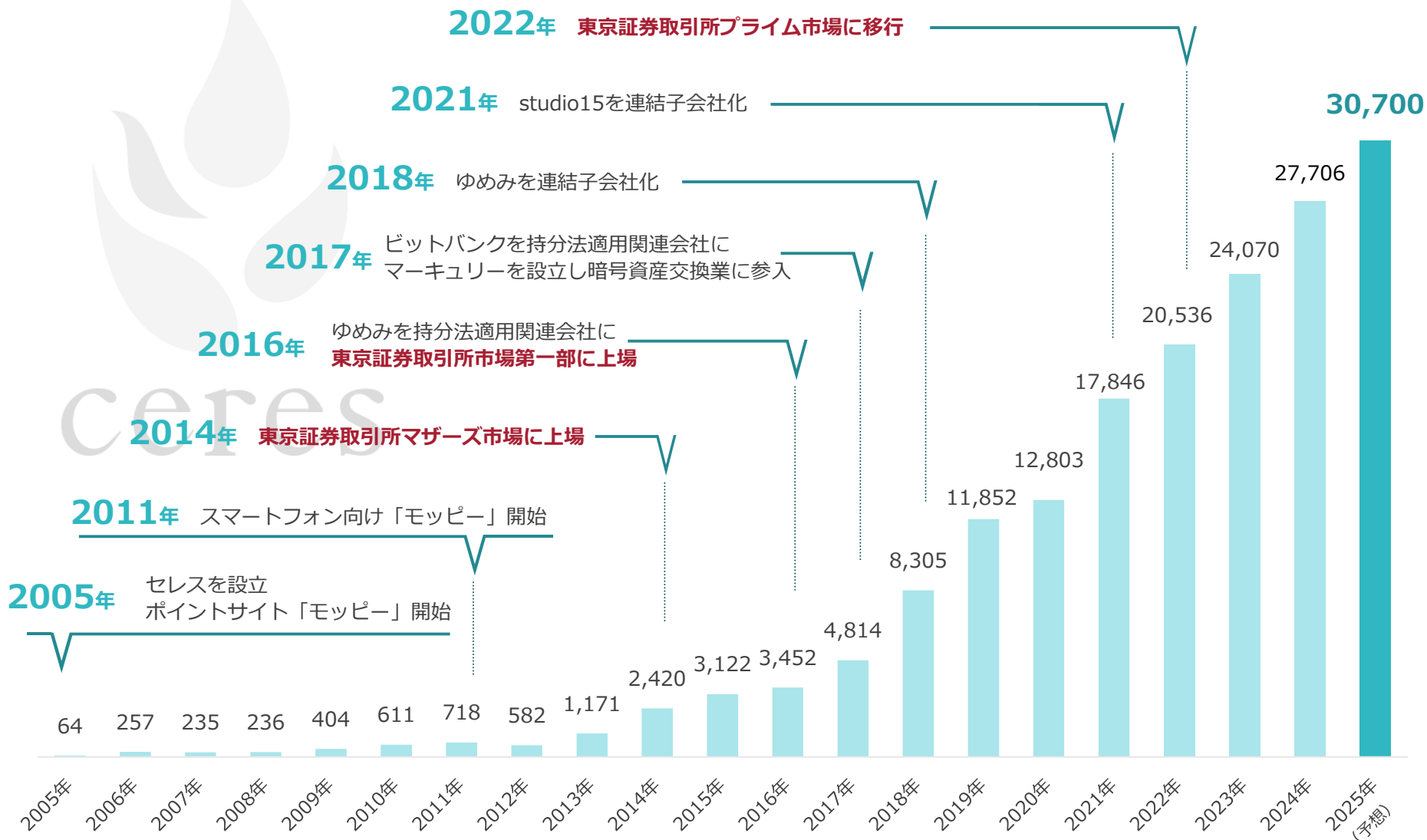
セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、
様々なマーケティングサービスを提供することにより、
豊かな社会生活の実現をはかります。

「トークンエコノミーを創造」



CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。

会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都渋谷区桜丘町1番1号 渋谷サクラステージ SHIBUYAタワー21F
決算期	12月
資本金	21億2,506万円（2025年3月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
従業員数（連結）	678名（2025年3月末／臨時雇用者除く）
事業内容	モバイルサービス事業 フィナンシャルサービス事業
連結子会社	株式会社マーキュリー、株式会社ディアナ、株式会社バッカス、studio15株式会社、株式会社サルス、株式会社アポロ・キャピタル、Apollo Capital1号投資事業有限責任組合、Apollo Capital2号投資事業有限責任組合、株式会社ラボル、株式会社ゆめみ
持分法適用関連会社	ビットバンク株式会社

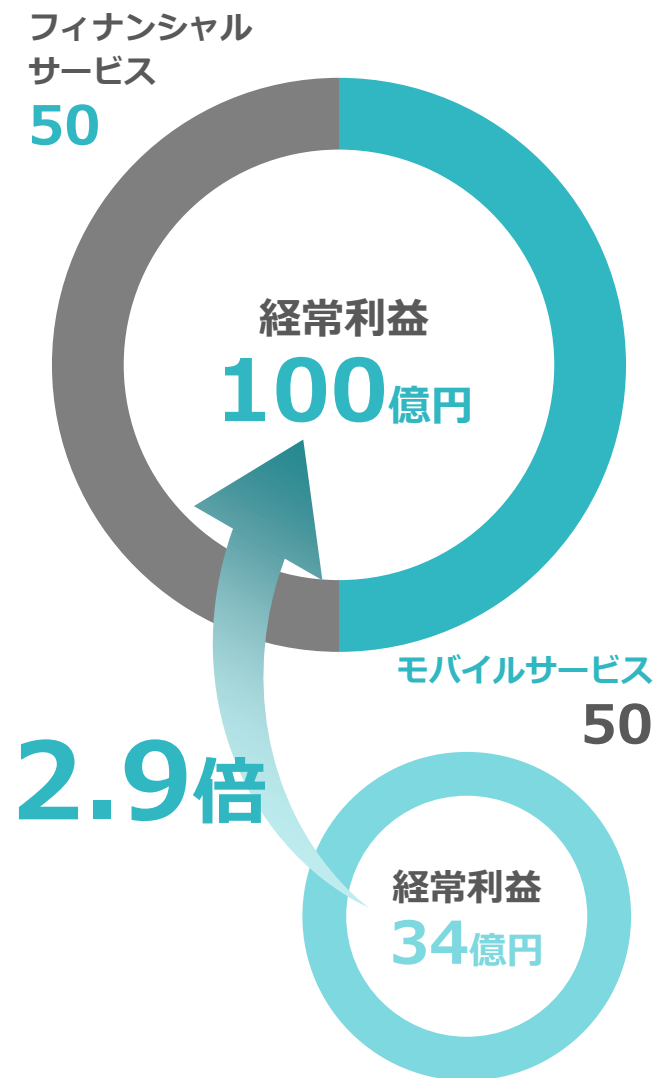
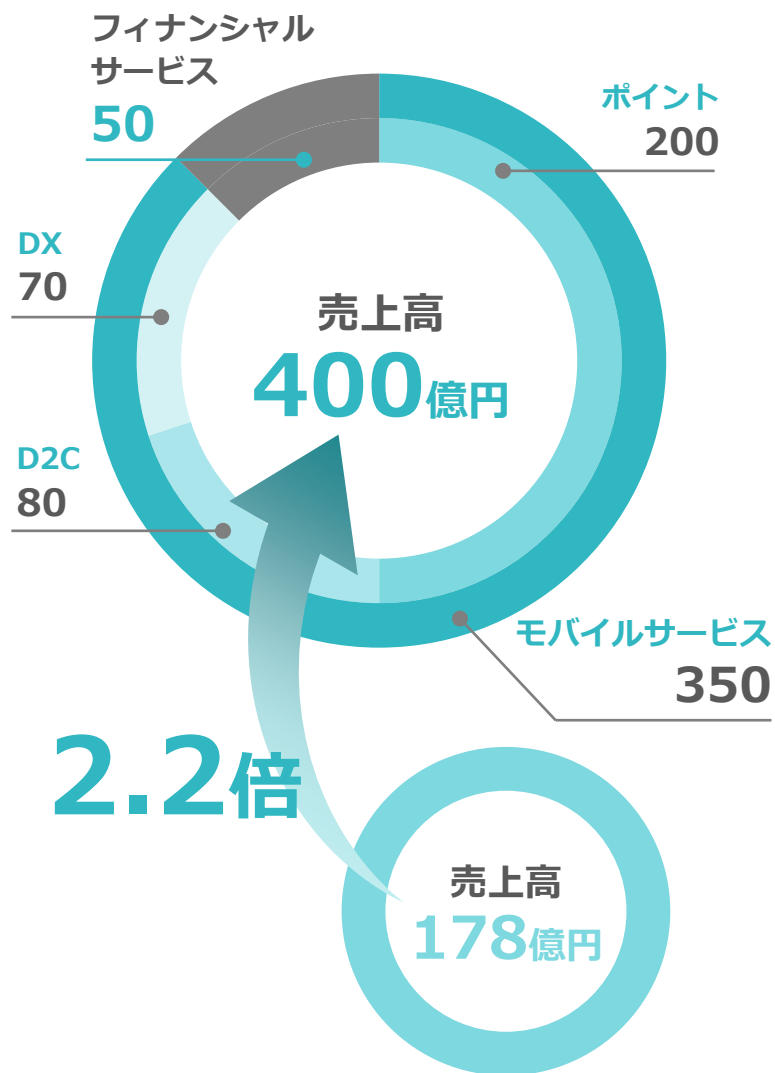
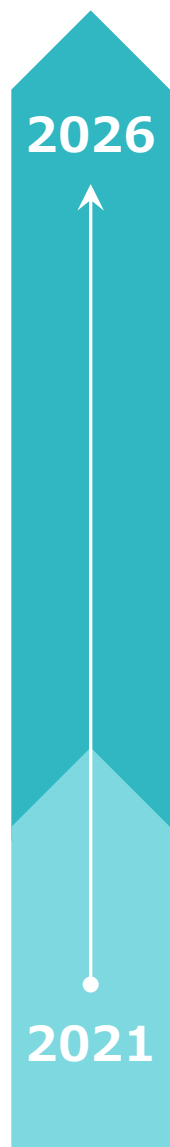


※ 売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定して記載しております。

売上高 (単位: 百万円)

中期経営計画2026の売上・利益構成

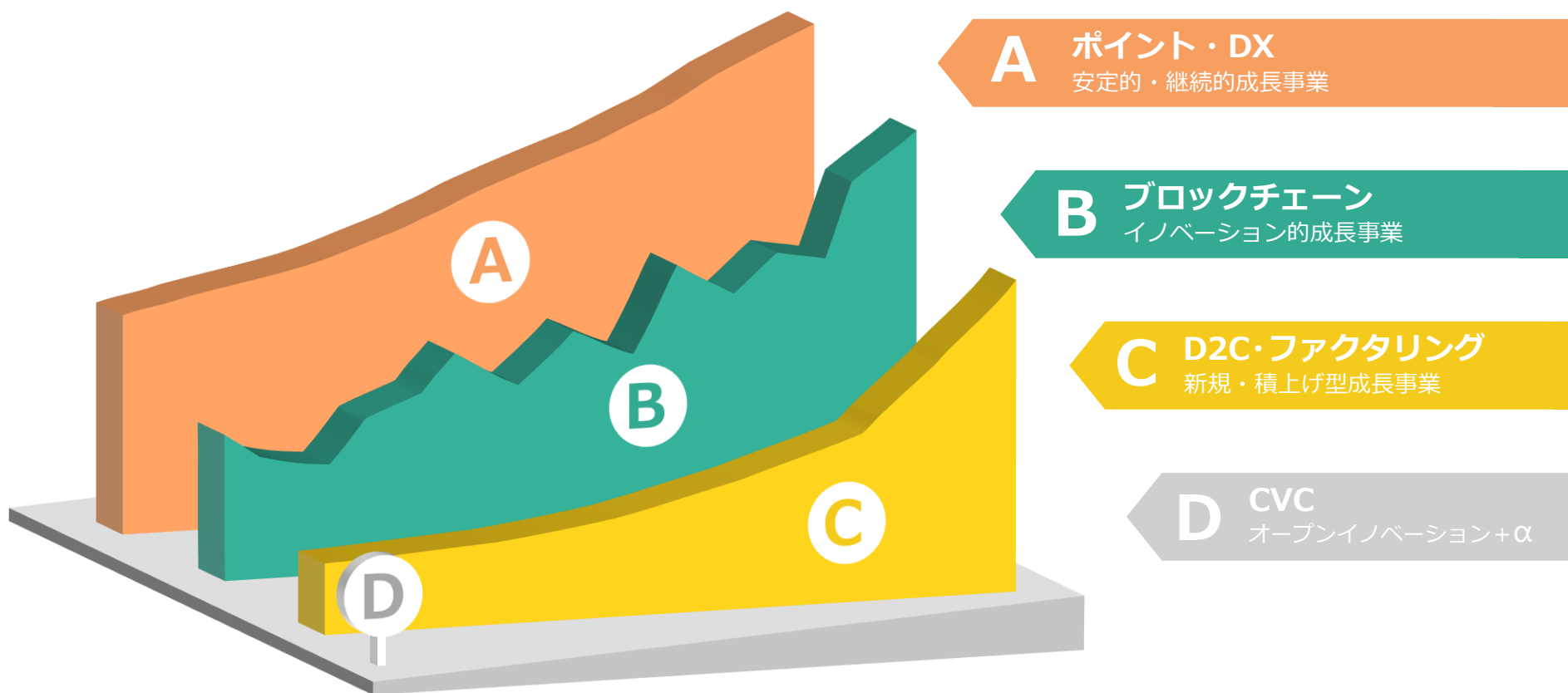
(億円)



主力のモッピーで安定的にキャッシュを創出し成長分野に積極投資 成長モデルの異なる事業を組み合わせ持続可能な事業ポートフォリオを構築

	セグメント	運営会社	サービス		
モバイルサービス	ポイント	株式会社セレス studio15株式会社	 	 	 持ち家計画
	D2C	株式会社ディアナ 株式会社バッカス 株式会社サルス			
	DX	株式会社ゆめみ			
フィナンシャルサービス	ブロックチェーン	株式会社マーキュリー ビットバンク株式会社			
	オンライン ファクタリング	株式会社ラボル			
	CVC (投資育成事業)	株式会社アポロ・キャピタル			

中期経営計画2026達成に向けて成長モデルが異なる事業ポートフォリオ構築
ポイント・DXで安定成長しブロックチェーン・D2Cで非連続な急成長を実現

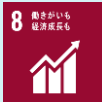
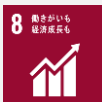
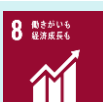


APPENDIX

サステナビリティの取り組み

サステナビリティ経営における7つのマテリアリティ

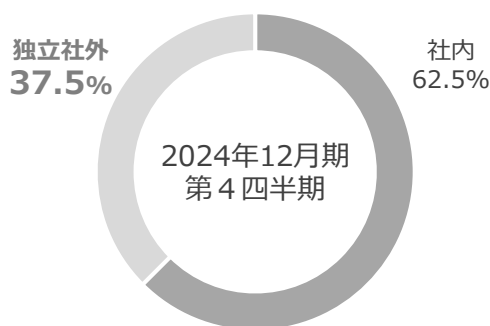
特に注力して取り組むテーマである「7つのマテリアリティ」 サステナビリティ経営においてこれまでのESG戦略を一層強化

マテリアリティ		関連するSDGs					
1	自社サービスを通じた豊かな社会の実現への貢献						
2	オープンイノベーションによる社会課題解決・経済発展への貢献						
3	デジタル広告の公正な運用と業界の健全な発展への貢献						
4	環境に配慮した製品・サービスの提供						
5	多様な人材の活躍						
6	情報セキュリティとプライバシー						
7	コーポレートガバナンスの強化						

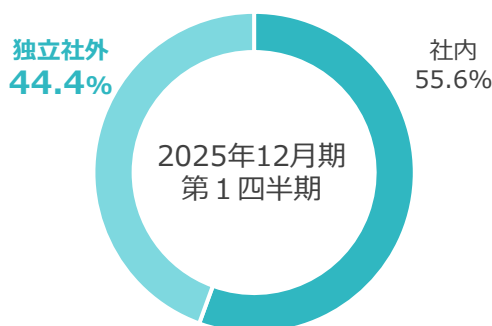
※サステナビリティサイトURL : <https://ceres-inc.jp/csr/>

技術ブランディング・技術広報に実績のある佐藤祥子氏を独立社外取締役役に起用 適切なガバナンス体制とダイバーシティを推進した経営体制の構築を推進

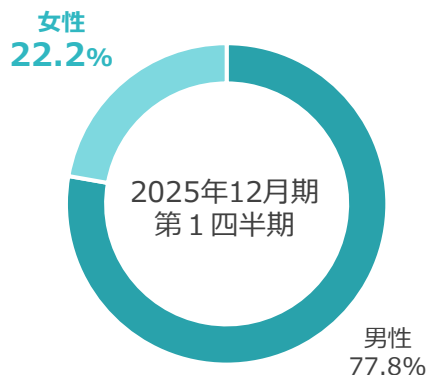
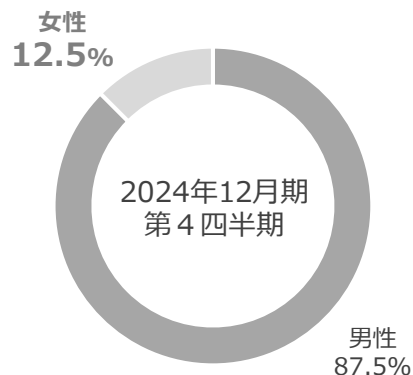
セレス取締役 独立社外取締役比率



2025年4月以降



セレス取締役 男女比



佐藤 祥子 氏

ベンチャー企業のフロントエンドエンジニア、マーケティングマネージャーを経て、2019年9月よりLINE（現LINEヤフー）にてエンジニア組織のTech Branding, Trainingや技術カンファレンスの運営を担当。イベントやブログ、動画などを中心に社内外の技術コミュニティの盛り上げや機会づくりなど各組織のサポートに従事する。その後、2024年3月よりDeveloper Relationsのサポート事業（技術広報/技術コミュニティ/技術カンファレンス支援）を立ち上げ独立。

経営・IT・財務・法務・SDGsなど幅広い分野をカバー
バランスが取れた経営陣で構成し、事業成長と社会的責任を両立

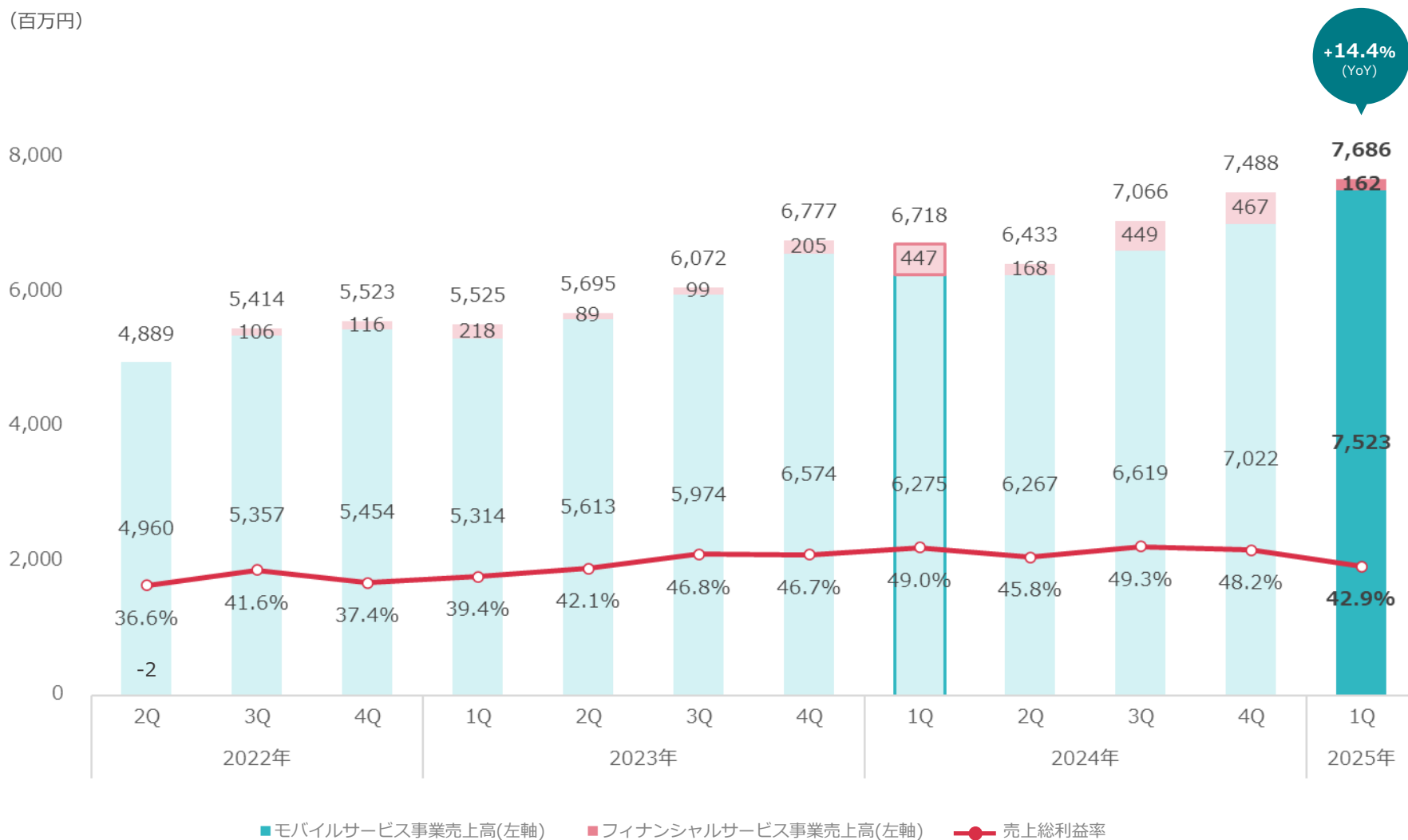
	独立性	企業経営	営業・ マーケティング	IT・DX	財務・ 会計	法務・ リスク管理	SDGs・ESG
都木 聡		●	●	●	●		●
野崎 哲也		●	●	●			●
小林 保裕		●			●	●	●
志賀 勇佑		●	●	●			●
多田 斎	●	●	●		●	●	●
佐藤 祥子	●	●	●	●			●
千歳 香奈					●	●	●
高橋 由人	●	●		●	●	●	●
上杉 昌隆	●	●				●	●

APPENDIX

業績推移

四半期売上高推移

(百万円)

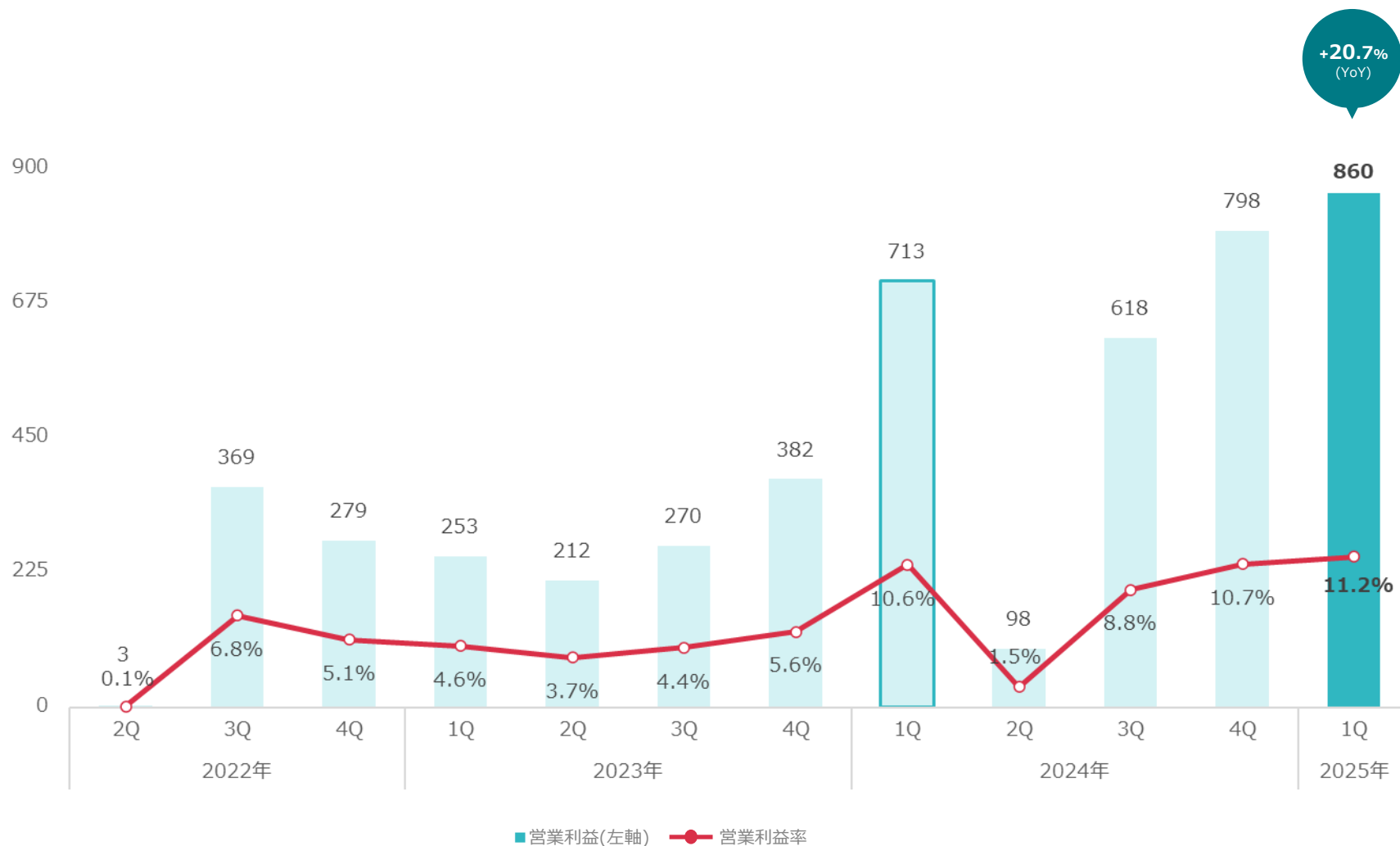


+14.4%
(YoY)

※ 2021年度以前の売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定した数値で記載しております。
 ※ セグメント内区分の変更により2021年度以前のモバイルサービス事業の内訳を修正して記載しております。
 ※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

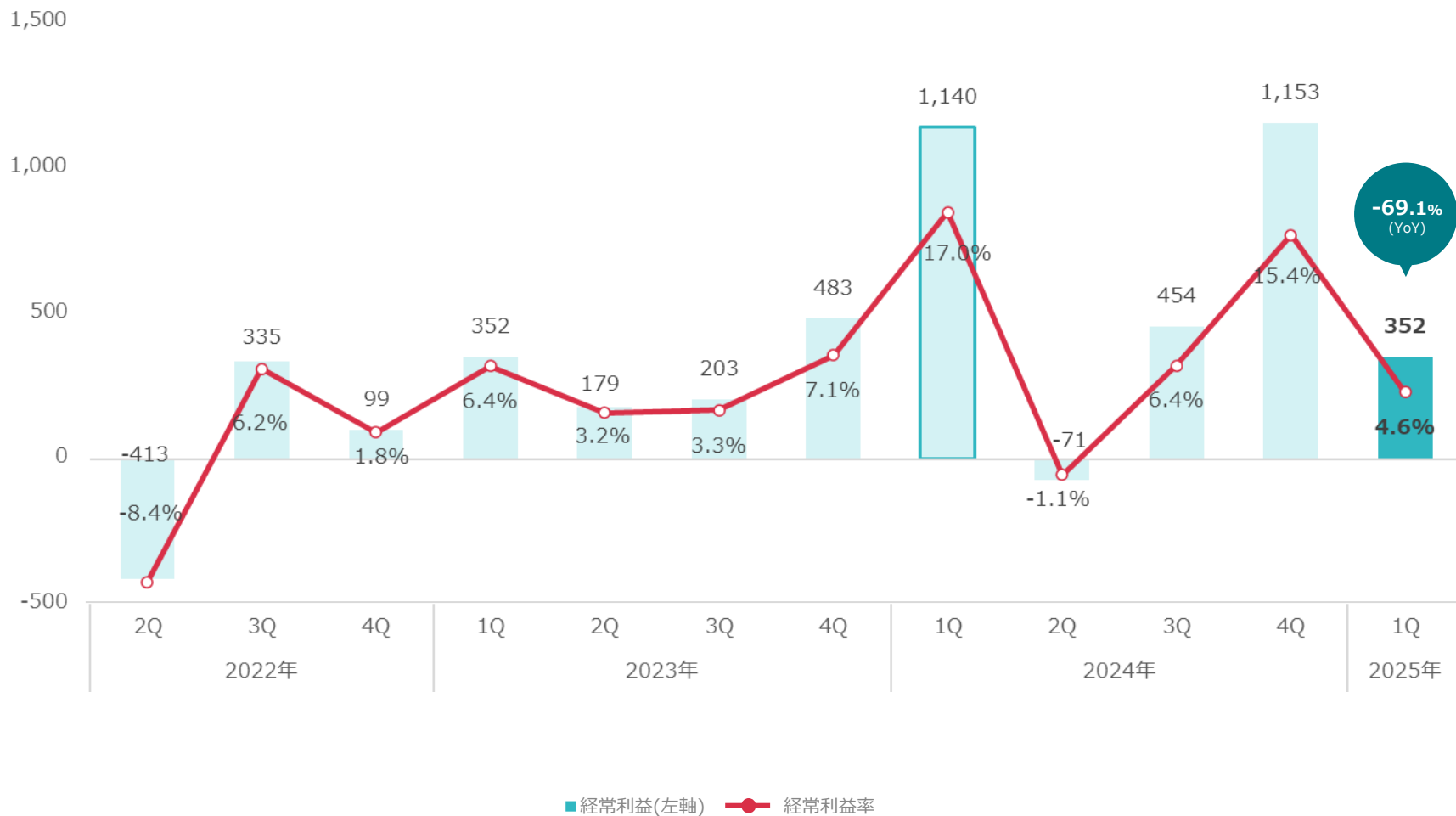
四半期営業利益推移

(百万円)



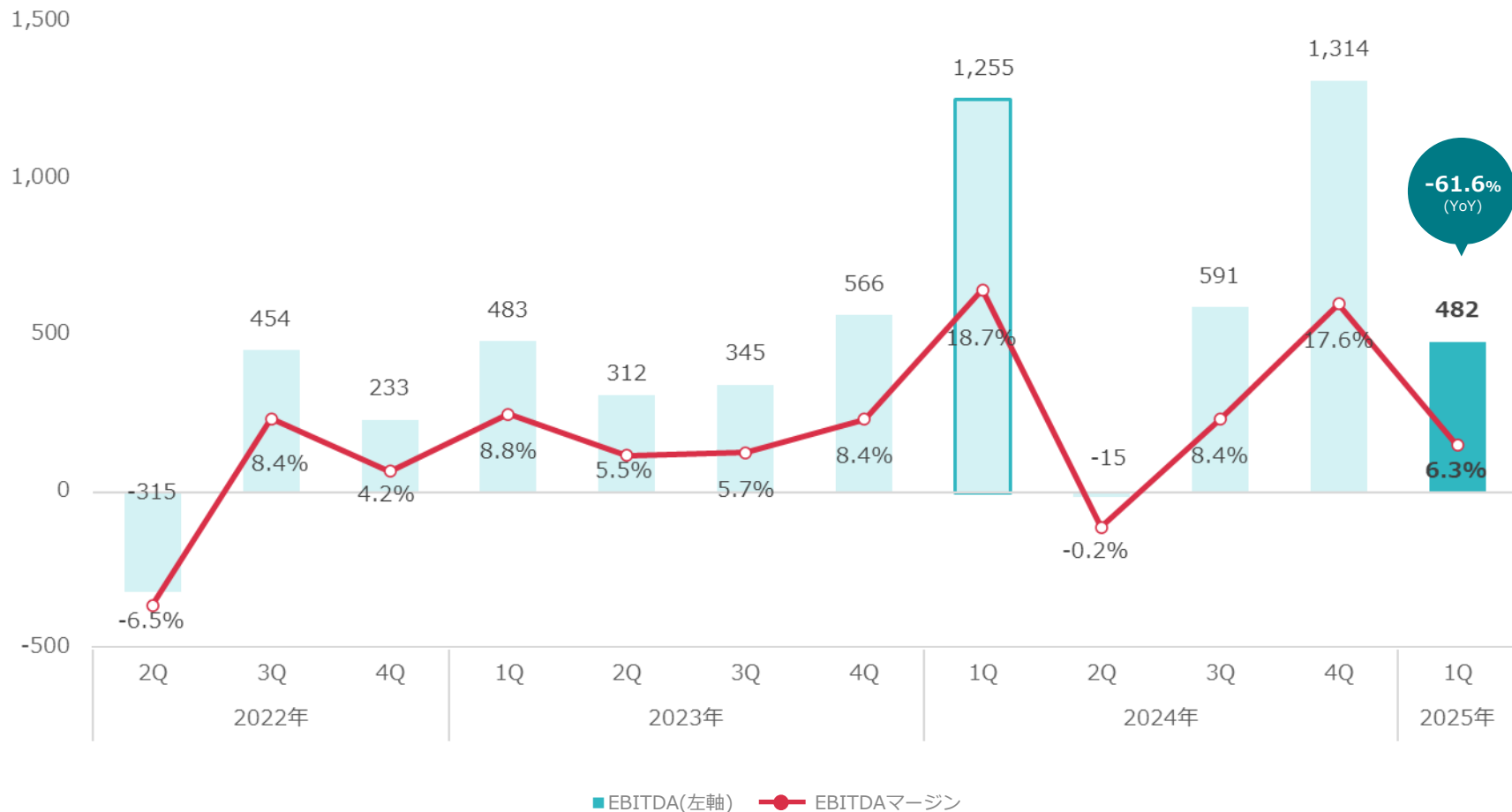
四半期經常利益推移

(百万円)



四半期EBITDA推移

(百万円)

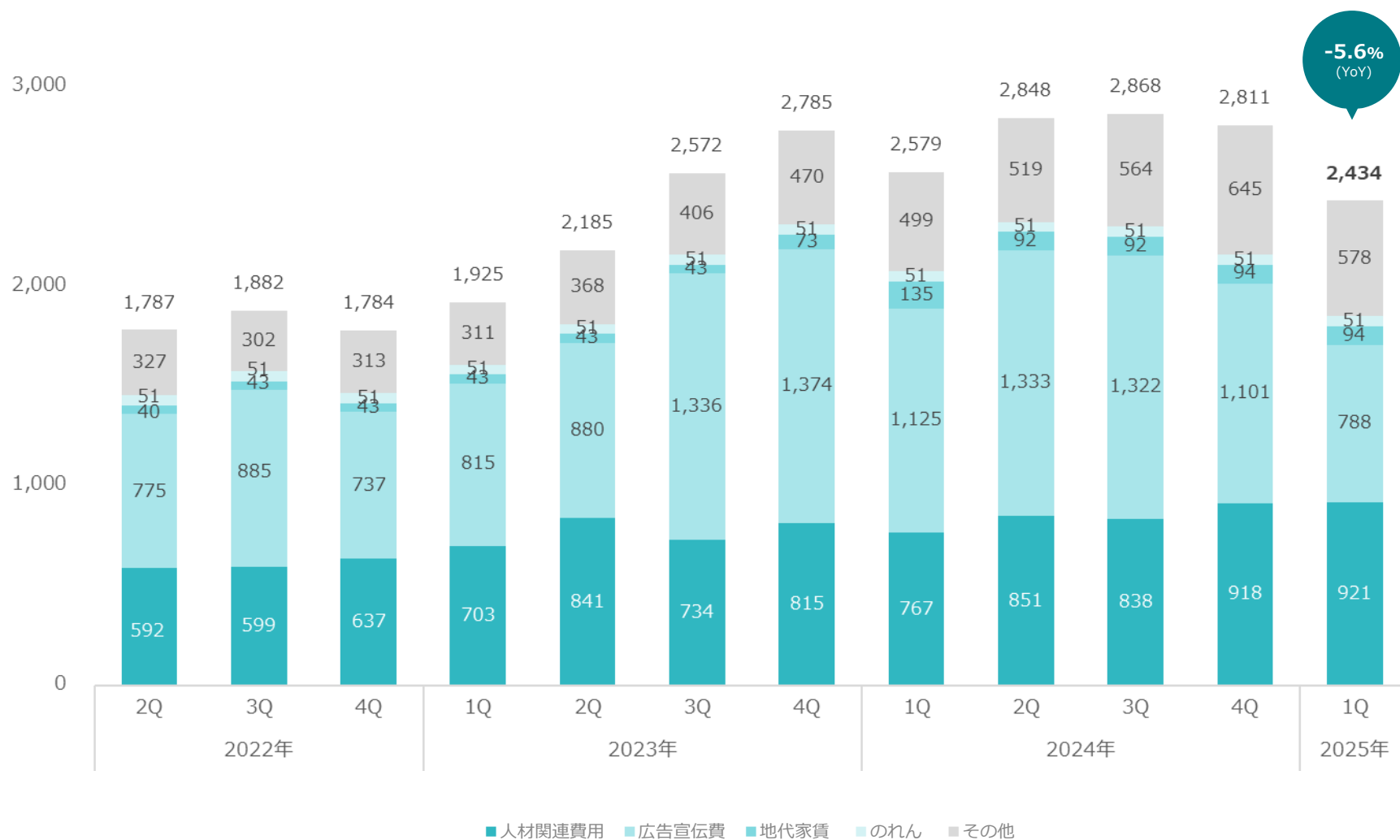


-61.6%
(YoY)

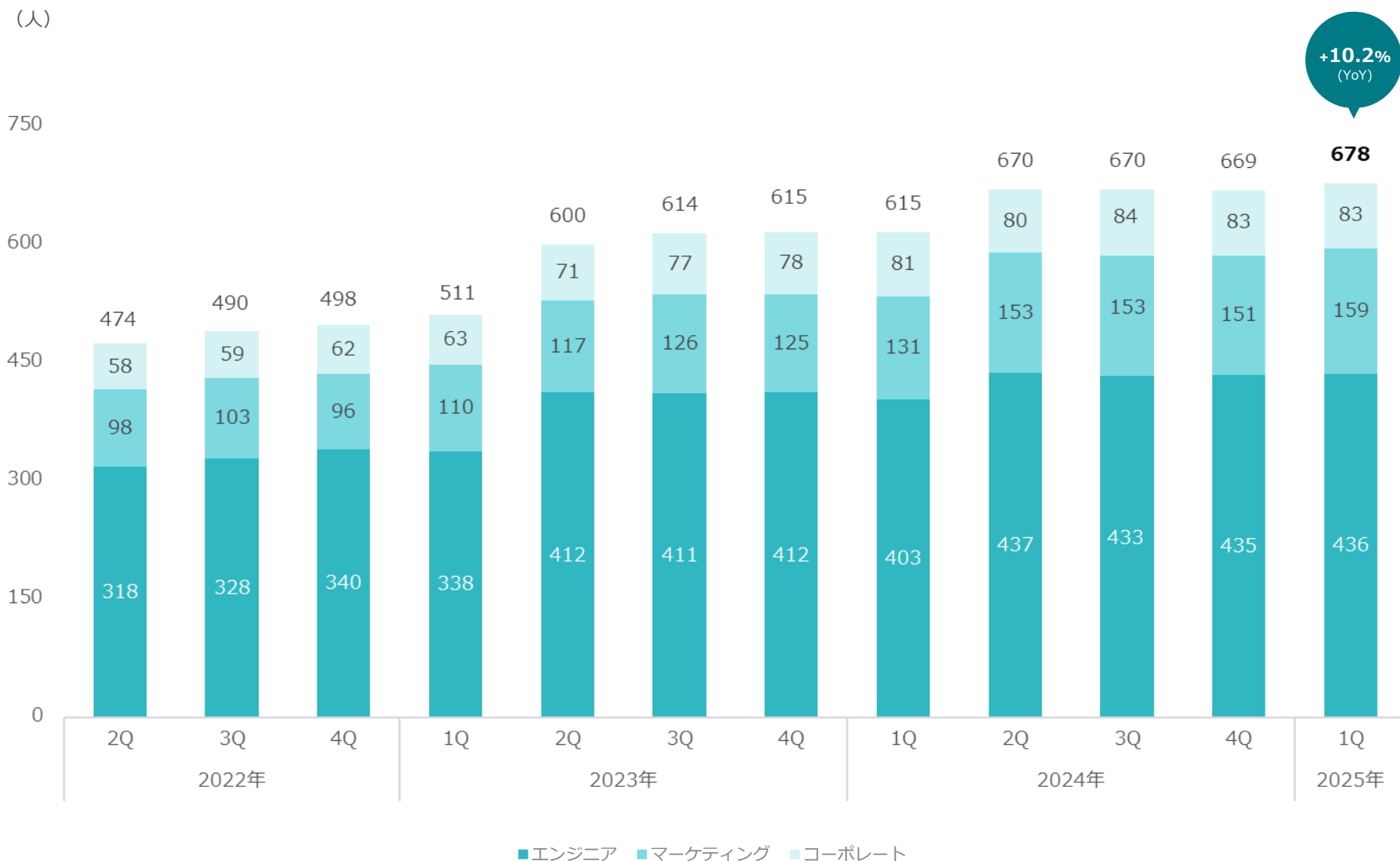
※ EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 評価損

四半期販売費および一般管理費推移

(百万円)



従業員数推移



※ 契約社員、派遣社員、アルバイト は含まず

四半期売上高

(単位：百万円)	2023年			2024年				2025年
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	5,695	6,072	6,777	6,718	6,433	7,066	7,488	7,686
モバイルサービス事業	5,613	5,974	6,574	6,275	6,267	6,619	7,022	7,523
ポイント	3,359	3,324	3,607	3,553	3,453	3,473	3,924	4,934
D2C	1,174	1,433	1,800	1,751	1,748	1,937	1,597	1,113
DX	1,104	1,250	1,211	983	1,125	1,244	1,510	1,481
セグメント内取引高	-25	-32	-45	-13	-60	-35	-10	-7
フィナンシャルサービス事業	89	99	205	447	168	449	467	162
セグメント間取引高 / 調整額	-6	-1	-2	-4	-3	-2	-1	-0

四半期営業利益

(単位：百万円)	2023年			2024年				2025年
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	212	270	382	713	98	618	798	860
モバイルサービス事業	762	812	926	1,119	789	1,143	1,343	1,539
フィナンシャルサービス事業	-256	-263	-239	-54	-412	-267	-256	-357
調整額	-293	-279	-304	-351	-278	-257	-289	-321



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。